

第4回大会

関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会

報告書



- 【期 日】 平成30年9月22日(土)～23日(日)
- 【会 場】 茨城大学 水戸キャンパス(茨城県水戸市文京2-1-1)
- 【主 催】 茨城県教育委員会, 茨城県生涯学習・社会教育研究会
- 【主 管】 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会実行委員会
- 【協 賛】 NPO 法人ひと・まちなっとわーく, NPO 法人インパクト
(公財) 茨城県教育財団, NPO 法人日本スポーツ振興協会
(公財) 日本教育公務員弘済会茨城支部
- 【後 援】 福島県教育委員会, 栃木県教育委員会, 群馬県教育委員会, 埼玉県教育委員会,
千葉県教育委員会, 神奈川県教育委員会, 国立青少年教育振興機構, 茨城県社会
教育委員連絡協議会, 茨城県公民館連絡協議会
- 【協 力】 茨城大学社会連携センター, 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
茨城県教育庁社会教育主事会

はじめに

関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会第4回大会は、平成30年9月22日、23日の2日間、茨城大学教育学部を会場として開催されました。1日目は450名、2日目は186名、2日間で延べ636名の参加となりました。これまでの第1～3回大会に比べ、最も多くの参加者数を迎えることができました。さらに、高校生、大学生などの若い世代の参加者も増加し、多様で充実した内容が、明るい雰囲気の中で交流できたことを報告させていただきます。



1日目は、「公民館・施設と地域づくり」「市民の手による活動」など5つのテーマを柱に5会場で計20事例の報告が行われました。報告は福祉課題、環境課題、子供をめぐる諸問題から多文化共生やまちづくり課題など、私たちが直面している多様な日常に切り込んだ実践的現場報告だったと思います。学生・高校生や市民（団体）、社会教育関係職員や社会教育委員、企業などからの迫力ある報告に質疑時間の不足を感じました。

夜の情報交換会も盛況で、【名刺交換めぐり】に続いて、乾杯の後はそここでの談笑に満ち溢れていました。それは、20例の実践報告と課題共有の満足感に満ちていたかのようでした。

2日目は、5分科会の総括的まとめが5人の責任者から提案され、20の実践事例をもとに、現在の社会教育実践を取り囲む状況が整理・報告されました。続いて、馬場祐次朗氏（一般社団法人全国社会教育委員連合副会長・常務理事）と長谷川幸介氏（茨城県生涯学習・社会教育研究会会長）の二人によるトークセッションが行われました。「生涯学習・社会教育にとって、今は追い風なのか？」「あらためて社会教育と学校教育の関係は？」などの基本的課題を軸に討議していただきました。「実践すれば追い風、目をつむれば向かい風」という指摘が印象深く感じられました。そして、クロージングでは、研究会副会長の池田馨氏より、2日間の実践研究交流会を通しての総括が話されました。第3回大会に提起された課題（＝つながる）を受けて、第4回大会では、社会教育の多様な市民活動分野とのつながりの可能性や多様な世代とのかかわりが実感されたことなどの実践的評価が提示されました。第5回大会への期待の高まりが会場全体に広がりました。

本実践研究交流会は、このように関係者の方々のご尽力・ご協力により、多くの成果を収めて閉じることができました。今後は、交流会を通して得られた成果をそれぞれの地域、それぞれの機会や場で広げ育て、その結果を持ち寄り、次回の大会につないでほしいと願っております。

最後に、本報告書の刊行にあたり、計画段階から実行委員会の中心となってご尽力下さった茨城県教育委員会生涯学習課の皆様、国立大学法人茨城大学の皆様、国立教育政策研究所社会教育実践研究センターのセンター長及び職員の皆様、国立青少年教育振興機構と各施設等の関係機関・施設の皆様、そして交流会にご参加くださった多くの皆様に心からの謝意を申し上げ、ご挨拶といたします。

関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会実行委員会

実行委員長 菊池 龍三郎（茨城大学名誉教授）

<目 次>

大会テーマ及び日程	1
巻頭特集 トークセッションの報告	2
1 事業の実施体制	10
2 運営組織・活動内容	11
3 大会参加者	12
4 オープニング	14
5 事例発表	15
6 発表者の方へ～メッセージカードより～	36
7 情報交換会	41
8 分科会報告	42
9 トークセッション	43
10 クロージング	43
11 第4回大会を終えて～主催者からメッセージ～	44
12 アンケートより	45
13 成果と課題	50
14 当日速報	52

<参考資料>

- ・協議カード・メッセージカード
- ・アンケート用紙
- ・第4回大会チラシ
- ・新聞記事
- ・分科会組織と役割分担
- ・実行委員会名簿
- ・歴代大会テーマ

大会テーマ及び日程

第4回大会テーマ

『 LINK to Action ! “自分らしい未来”のための現場報告 』

社会教育実践には、その一つひとつに物語があります。

—あなたも、その物語に入り込んでみませんか

—あなたも、あなたの物語を考えてみませんか

—あなたとみんなの『幸せ物語』を創ってみませんか

大会日程

1日目 9月22日(土)

12:30 13:00 13:30 13:45 14:30 14:40 15:25 15:35 16:20 16:30 17:15 17:55 19:55

受付	オープニング	移動・休憩	事例発表 ①	移動・休憩	事例発表 ②	移動・休憩	事例発表 ③	移動・休憩	事例発表 ④	移動・休憩	情報交換会
教育学部 B棟	D棟 201		B棟 203 ～ 208		B棟 203 ～ 208		B棟 203 ～ 208		B棟 203 ～ 208		大学生協 食堂

2日目 9月23日(日)

8:30 9:00 10:10 10:20 11:30 12:00

受付	分科会報告	休憩	トークセッション <登壇者> 一般社団法人全国社会教育委員連合 副会長・常務理事 馬場 祐次朗 氏 茨城県生涯学習・社会教育研究会 会長 長谷川 幸介 氏 <コーディネーター> 茨城県水戸生涯学習センター 次長兼企画振興課長 長谷川 馨 氏	クロージング <登壇者> 茨城県生涯学習・社会教育研究会 副会長 池田 馨 氏
教育学部 B棟	D棟 201		D棟 201	D棟 201

〔巻頭特集〕

～ トークセッションの報告 ～

テーマ①

「社会教育・生涯学習分野の激動期に、社会教育の到達点と意義を確かめる」

テーマ②

「関東から情報発信をするために、関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会が進むべき方向性」

登壇者：一般社団法人全国社会教育委員連合 副会長・常務理事 馬場 祐次郎 氏
茨城県生涯学習・社会教育研究会 会長 長谷川 幸介 氏

コーディネーター：茨城県水戸生涯学習センター 次長兼企画振興課長 長谷川 馨 氏

日時等：【2日目】9月23日(日)10:20～11:30 会場:教育学部D棟201講義室



Yujiro Baba

＜馬場 祐次郎 氏＞プロフィール

文部省生涯学習局社会教育課高齢者教育専門官，文部省生涯学習局生涯学習振興課ボランティア活動推進専門官兼婦人教育課専門員，独立行政法人国立室戸少年自然の家の所長，国立教育政策研究所社会教育実践研究センター長，奈良女子大学理事・事務局長，徳島大学大学開放実践センター長・教授等を歴任。

平成30年4月から一般社団法人全国社会教育委員連合副会長・常務理事として生涯学習・社会教育の推進に寄与されている。社会教育，生涯学習，ボランティア等を専門としており，主な著書として「二訂生涯学習概論」（ぎょうせい）がある。社会教育主事講習をはじめ，多くの講座・セミナーの講師としてご活躍されている。

＜長谷川 幸介 氏＞プロフィール

茨城大学社会連携センター准教授，茨城大学教育学部特任准教授を歴任。また，茨城県少子化対策推進県民会議や茨城県男女共同参画審議会の委員として県の各種計画策定に携わる。平成30年から茨城県生涯学習・社会教育研究会会長として茨城の生涯学習・社会教育の推進に寄与されている。

生涯学習，社会教育，地域福祉等を専門としており，主な著書として，「生涯学習とまちづくり」（学陽書房），「町内会物語」（文真堂），「今を生きる人間学」（文真堂）がある。全国各地で地域社会，社会教育，生涯学習について楽しくわかりやすいテーマで講演活動を行いご活躍されている。



Kosuke Hasegawa

【自己紹介】



馬場氏

私が3月までいた徳島県では、過疎化が進む地域をどう活性化するかということが今大きな課題になっているが、自然の中で伸び伸びと子育てをしたいと、都心からの移住者も結構いて、活気づいている村がある。

そこでは、古民家を改修し、そこを拠点として昔ながらの味噌造りなどを親子で体験することを通じ、お母さん同士がつながる「森の幼稚園」に取り組んでいる人たちを始め、新たなネットワークが生まれているが、その中心的な役割を担っているのが婦人会である。地域の婦人会がもつ緩やかなネットワークや様々な情報を活用し、上手に地域の再構築に貢献しており、移住してきた方にも住みやすい地域づくりができています。社会教育のこれからの役割の1つを見た気がする。

1時間程度の分科会報告に、社会教育とは何なのかが全て凝縮されている。社会教育の目標は、人がつながって幸せになることである。報告にはそれに必要な「福祉」「環境」「子ども」「学校」、全てのテーマが含まれていた。

馬場先生がおっしゃった「過疎」の問題も茨城にもある。それらを全て束ねているのが社会教育だ。

それぞれの課題（テーマ）があり、それを「どうするか」、という学習行動がある。その先に（つながりや幸せの）実現がある。人間が幸せになっていく装置である社会を、時代に応じてどのように作り変えていくか、今、激動期の中で社会教育の真価が問われている。



長谷川氏

【テーマ1】「社会教育・生涯学習分野の激動期に、社会教育の到達点と意義を確かめる」

コーディネーター：



長谷川馨氏

お二人の先生に本音で語っていただき、茨城はもとより関東近県の社会教育をどのようにしていくかを考える機会となるトークセッションにしたいと思います。

「激動期」とは、どこが激動なのか。文科省も大学も揺れてきた。しかし、私たちの暮らし方に最も激動が起きている。そのあたりを文科省は分かっているのか。



長谷川氏

一つ目の「激動」，

人と人が幸せになるために欠かすことのできないつながり方は，時代と共に変化する。そこをどうするのか社会教育は真剣に問うてきた。最近，地域のコミュニティの問題に呼ばれることが多く，そこが激動していると捉える。

二つ目の「激動」，

人間だけが開発（土地に鋤を入れること）をして，幸せをつくってきた。生き延びるために，農業や学問，福祉も環境もつくってきた。科学もつくり，急ぎすぎたために原発等の課題を残すこともあった。次の世代に課題を委ねてきたのが人間である。

社会教育は，人間としての当たり前の幸せをつくってきたが，次の世代に委ねなければならない課題が非常に多くなっている。

新しい幸せをつくっていく課題として，①つながること，②新しい社会に鋤を入れること，この2つが私たちの暮らしの中で起きている「激動」である。

馬場先生，いかがでしょう。



長谷川氏

社会教育は，これまでも生活や地域の課題を重要な学習として取り組んできており，その意味でいつでも激動期である。時代の変化に伴い取り上げる内容や質は変化するが「激動」には間違いない。地域の中には，本人たちは意識していないが社会教育活動をしている人がたくさんいて，解決に主体的に取り組んでいる。それを「社会教育」と認識しているか否かの違いだけだ。

我々，社会教育担当者が今，地域や社会の課題をきちんと意識しないと，社会教育行政はどんどん「いらぬもの」となり，無くなってしまふのではないかとこの危機感を絶えず抱いている。

長谷川先生，いかがでしょう。



馬場氏

社会教育は多層で多様な分野に関わっている。

たとえば福祉と社会教育は接点が多く，考え方も似ている。福祉に社会教育の考え方を取り入れることで，よりよい課題解決ができることもある。国はこれからの日本を「地域共生社会」と言っている。学校も同様でコミュニティ・スクールや地域学校協働活動など地域のことはみんな社会教育に集まってきている。

馬場先生，社会教育は今，追い風でしょうか？



長谷川氏



馬場氏

う〜ん。追い風にもなっていない。中央教育審議会における公立社会教育施設の首長部局への移管に関する議論や文科省の「社会教育課」の廃止など社会教育行政を取り巻く状況は厳しいと言わざるを得ない。

ただ不易と流行という言葉があるように、変えていかななくてはならないこともある。但し学習と教育は全く違うものなのに、現在でも生涯学習と社会教育が混同されているところに問題がある。少なくとも社会教育行政に携わる人は両者の違いをきちんと認識する必要があるし、文科省も社会教育をもう少し大切にしてほしいと個人的には思っている。

全くその通りだ。

福祉をやっていると、直接支援か間接支援かという話になる。高齢者が課題を抱えると高齢福祉課が直接支援をする。

それでは社会教育は必要ないのか。そうではない。社会教育は、地域とのつながり、行政との関わりをつくるという間接支援が重要である。



長谷川氏



馬場氏

ピンチをチャンスに変えるには、転機が必要。このような場（関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会）に出てきて地域での社会教育活動の取組やその成果を、外に向けて発信していくことが大切である。

これからは特に、社会教育主事のプレゼン力が、ますます大切になる。そうでないと、社会教育は残るが、社会教育行政が残らなくなる。社会教育行政の終焉であると危機感を抱いている。社会教育主事は絶えず地域に出かけて行って、地域の課題を自分の目で見て、課題解決に資するため関係機関・団体等のネットワークを広げていくことが大事である。

芭蕉の理念に「不易流行」があるが、例えば、子どもたちに自然体験をさせようとしたとき、江戸時代から変わらないものがある。

しかし、時代は流れているのだから変わるものもある。変わるものと変わらないものをきちんと見極めて、区分けをすることが大切。

社会教育の本質が失われていくのは、「ここは変わってはいけない」というところが弱くなっているため。このような場に来て、他の話を聞くことで「変わらないもの」を確認することができる。

一方、若い人たちのプレゼン力（どのようにアピールするか）は、遥かに上達している。これは流行だ。馬場先生がおっしゃることを私も全くその通りだと思う。



長谷川氏



馬場氏

最近の学校教育の動きを見ていると、本来、社会教育が担うべき所に学校教育がかなり入り込んできている印象が強い。そのことに違和感を感じながら、逆にもっと社会教育が頑張らなければいけないと、常々思っている。

コミュニティ・スクールなど学校教育関係の最近の文科省の政策は、「学社融合」という視点から重要だが、社会教育の本来の役割と重要性は大切にしてほしい。

しかし、そこは我々が頑張らなければならないところかもしれない。



長谷川氏

社会教育の分野で、この何年かずっと学校のことをやっているのではないか。学校と地域との関わりばかりが焦点化されているが、社会教育はそんなに狭いものではないはずだ。

過疎のことにも国際的なことにも、皆が手を携えて取り組んでいるのに、文科省が「学校のことをどうにかするように」と言う。それは変だと思う。



馬場氏

手を組むのは良いが。



長谷川氏

社会教育では、学校教育とは違う「子どもの教育論・学力論」をやってほしい。子どもの学力は学校の中だけでは測れないはずだ。

私たち社会教育サイドは、学校のことをやるなら、そのあたりから取り組んでいく必要があるのではないだろうか。



馬場氏

私も賛成だ。学校教育は大切だけれど、そこが抱えすぎているところに課題がある。

学校が抱え込まないように、制度的にも変えていく必要があるだろう。

学校をどうするかという視点で、社会教育の意義を語るのはいかなるものか。学校のサポートばかりをすることは、社会教育をしている者として誇りを失う。社会教育の本質が問われている。



長谷川氏



馬場氏

危機感を抱いている。学校を支援することは大事なことだが、本来の社会教育の目的である「大人の成長」という視点を絶対になくしてはいけない。子どもを支援するのだが、支援を通して大人(学校の先生方や社会教育を行う者を含めて)が成長するんだという目的を、学校側と社会教育サイドが最初にしっかりと共有することが大切だ。



コーディネーター：

どうしたら学校は変えられるのだろうか。学校には地域の方に入ってこられると大変という意識がある。地域は学校に入っていきたいと感じている。そこに社会教育がどのように関わると壁を取り払えるのか。



馬場氏

学校の先生の中には社会教育を知らない人も多いので教員研修に社会教育を必ず取り入れることが大切である。教員研修の1コマでもきちんと社会教育について学ぶ機会を位置付けるよう、教育委員会にお願いしたい。先日、若い先生から「なんで地域の人が学校に入ってくるのだろう」と疑問に思っていたという話を聞いたことがある。

「社会に開かれた教育課程」が目指されているが、現場は必要感を抱いていない、理解されていないというのが実状なのではないか。文科省の考えていることが現場には伝わっていないことにショックを受けた。

学校教育と社会教育の違いを整理する必要があるが、私は社会教育の可能性を感じている。

社会教育が対象とするのは、地球上で生き抜くためにつながり、自分たちの幸せをつくろうとする人間の組織・社会。そこには無償でも安い給料でも、環境など個々の問題に取り組んでいく人がいる。

このことが社会教育の土台だと思っている。

我々人間は一人では地球上で生きることができない障害を持っており、生き延びるために社会を補正したり直したりする(例：高い階段は誰も越えられないが、低くすることにより、多くの人が越えられるようになる)。

障害を取り払い、社会を作り直しながら幸せをつくり続けてきた仕組みがある。学校は、直している途中である(例：発達障害)。

今、先生方は学校の中で日々奮闘しているが、やがて「個性」と言われるようなときが来る。先生方もみんな頑張っている。社会の中でひずみを感じながらその中で戦っている。世の中には、無償でも取り組む人が2割いると言われている。

学校教育と社会教育のシステムは違う。そこを(理解して)やっぺいかないと、社会教育の本質が、ロマンが、消えてしまう。

私はNPO法人で、今の学校とは違う、別の学校をつくろうとしている。やがては社会がつくるようになるのだろうが。



長谷川氏



馬場氏

社会教育の究極の目的は人づくりである。学びを通した人づくり。地域や社会の課題解決に主体的に取り組める人材をつくるのが社会教育の普遍的な役割である。

今日、社会教育で取り組む課題は、地域協働活動をはじめ、地域の活性化支援などいろいろあるが、自ら課題に気づき、主体的に課題解決に参画していくいわゆる「自立した市民」を養成していくことが地域や社会をよくしていくことにつながることを忘れてはいけない。人づくりが社会教育の原点だと思っている。

【テーマ2】「関東から情報発信をするために、
関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会が進むべき方向性」

コーディネーター：今後どのように関東の取組を発信し、他県の情報を収集するのがよいか。

今後、関東近県7県で毎年持ち回りで行えるとよい。

この地域らしさとして、報告書を作り、記録を残すことに意義がある。ここに来られない人にも見てほしいことと、報告後の討論を大切にしている（生で聞くべきとの思いが強い）ことから、他地域との差別化を図る意図がある。

来年はそろそろ変えたいが、あと1年菊池先生に（実行委員長を）やってもらい、2年後から持ち回りでできるとよい。



長谷川氏

福岡県、山口県、愛媛県等の交流会（研修会）に出ているが、それぞれのやり方がある。西日本と関東では気質が違う。関東なりのやり方を模索してほしい。

円滑に進めるためには、社会教育主管課長会議等で諮ることや、各県にキーパーソンとなる人を置くこと等が必要になる。各県のキーパーソンを実行委員にするとよい。

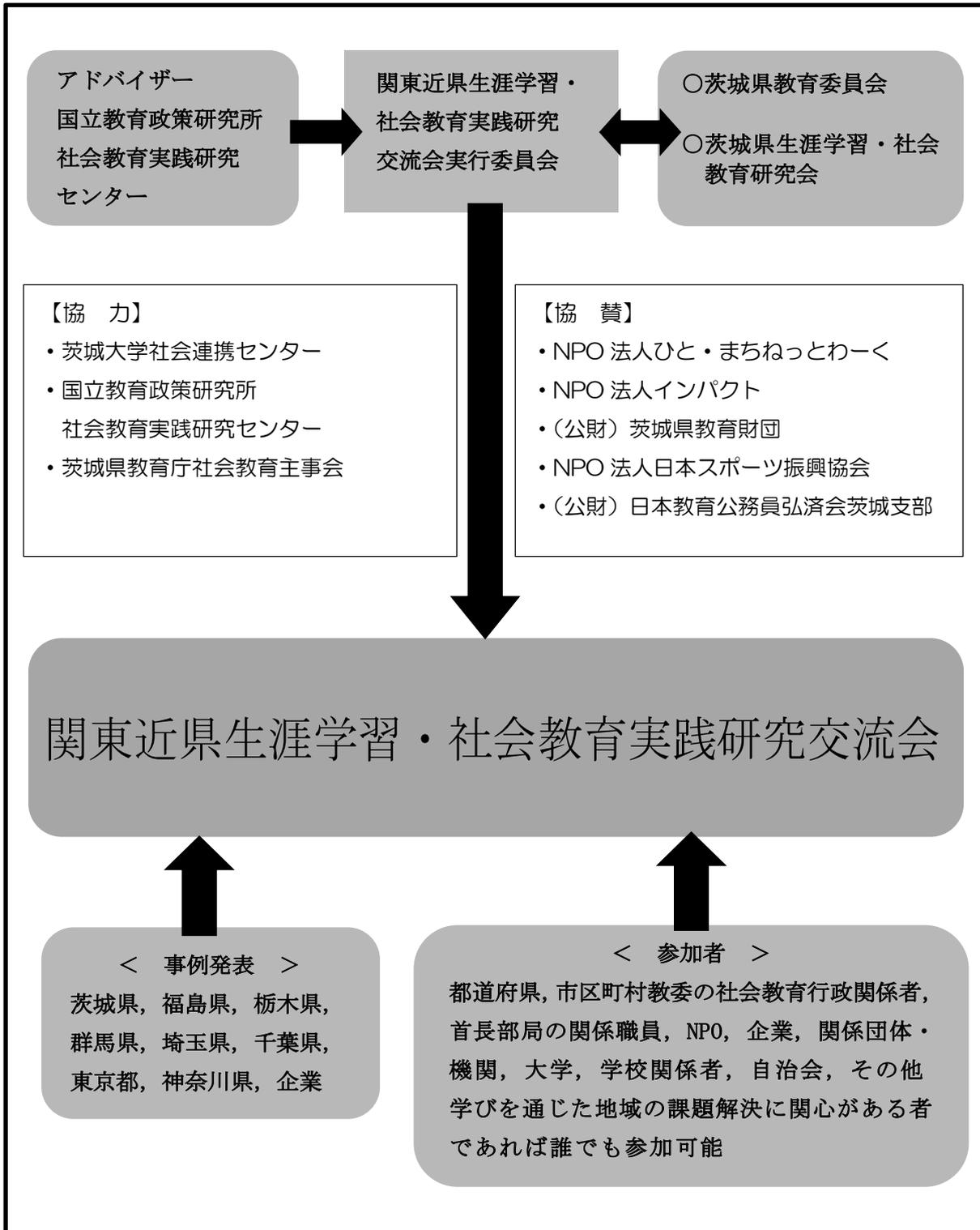


馬場氏

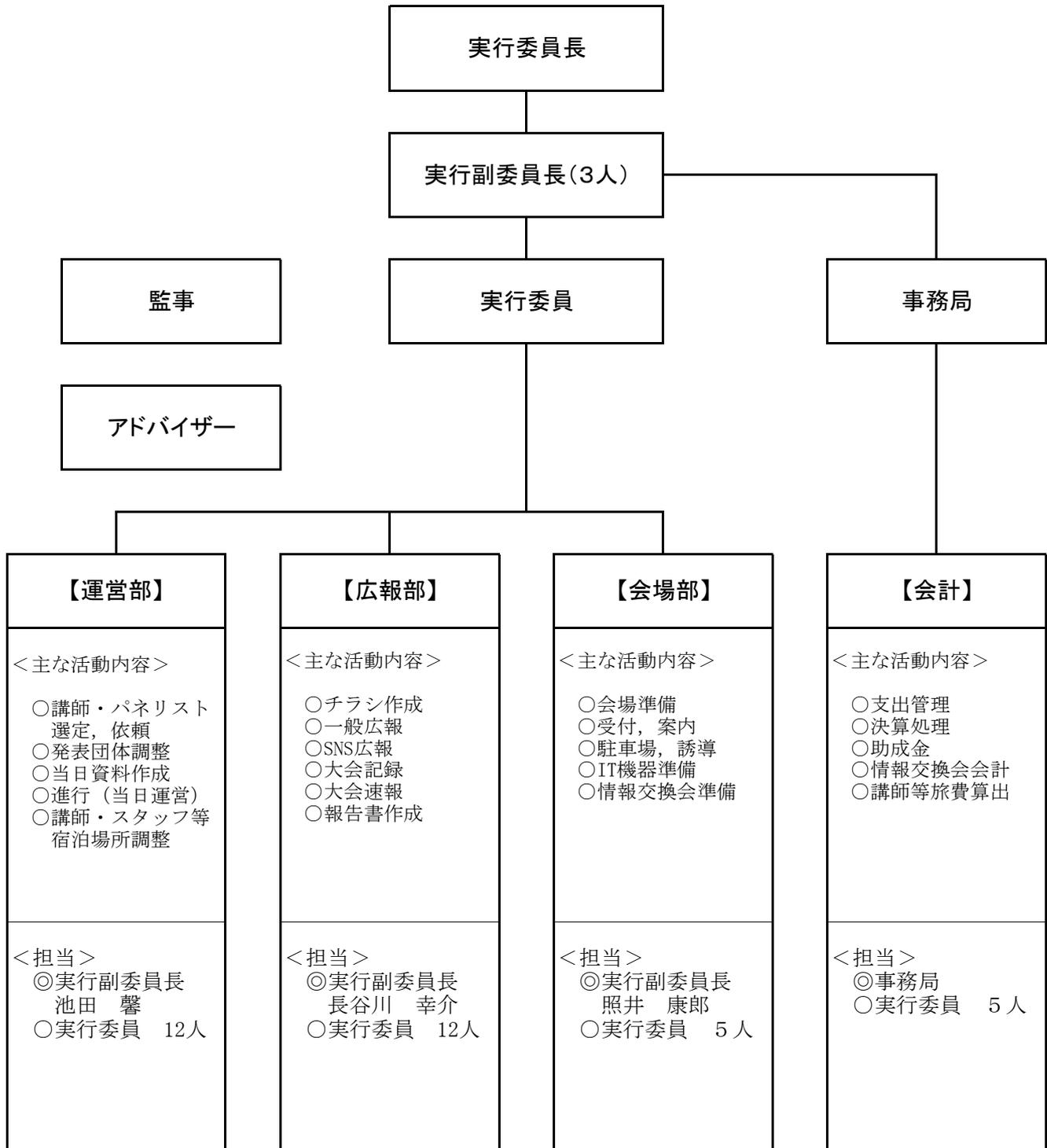
コーディネーター：

お二人の先生にいろいろなお話を伺うことができました。ありがとうございました。

1 事業の実施体制



2 運営組織・活動内容



3 大会参加者

■参加者数一覧 [都道府県別 (延べ人数)]

(単位：人)

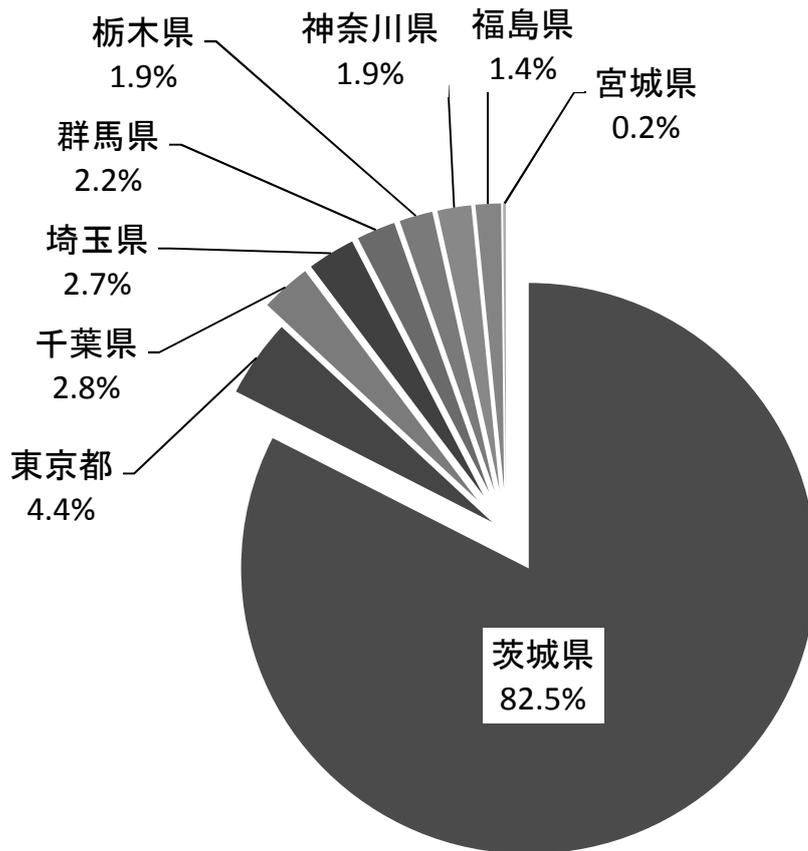
都県名	1日目 [9/22(土)]	2日目 [9/23(日)]	合計
福島県	8	1	9
茨城県	365	160	525
栃木県	10	2	12
群馬県	10	4	14
埼玉県	15	2	17
千葉県	15	3	18
東京都	18	10	28
神奈川県	9	3	12
宮城県	0	1	1
合計	450	186	636

【参考】

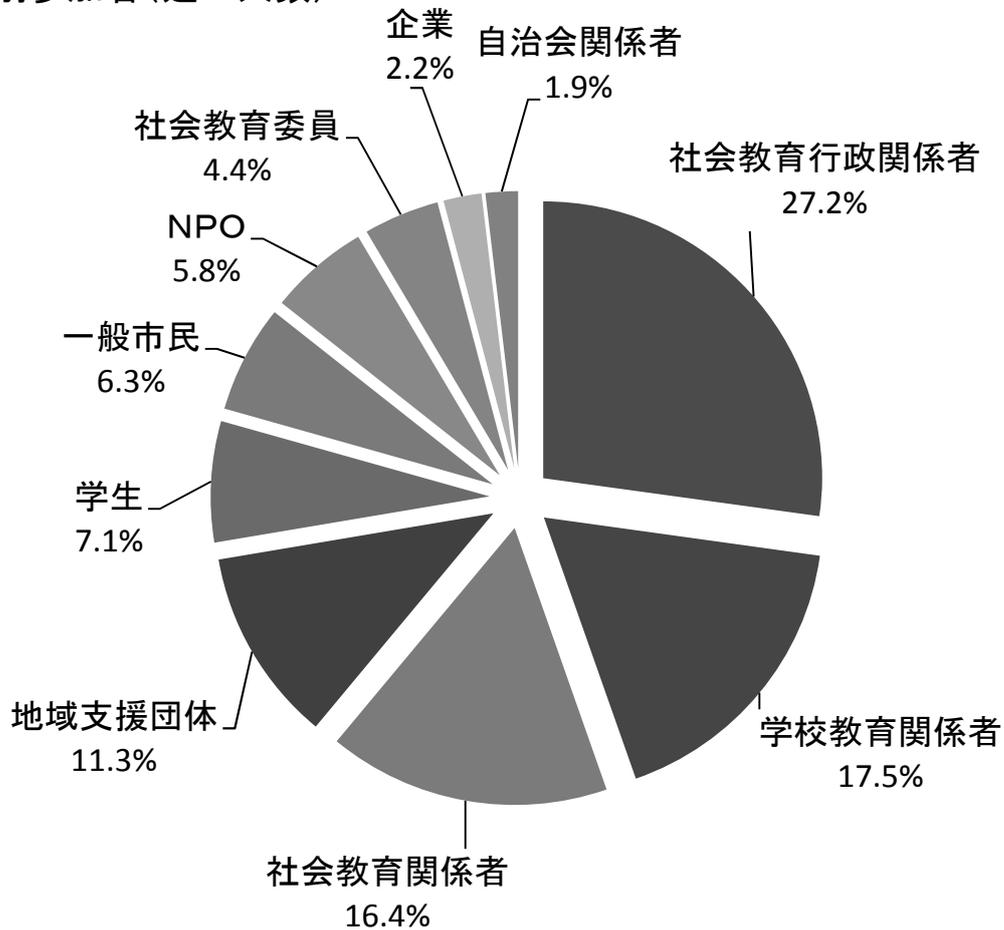
(単位：人)

	1日目	2日目	合計
第1回大会(平成27年度)	314	168	482
第2回大会(平成28年度)	331	184	515
第3回大会(平成29年度)	334	203	537
第4回大会(平成30年度)	450	186	636

■ 都道府県別参加者(延べ人数)



■ 所属別参加者(延べ人数)



4 オープニング

1日目 9月22日(土) 13:00~

■主催者



【実行委員会委員長
茨城大学名誉教授 菊池 龍三郎】



【茨城県教育委員会教育長 柴原 宏一】

■来賓



【国立教育政策研究所
社会教育実践研究センター長 妹尾 剛 様】



【全体風景】

5 事例発表

発表団体一覧

公民館・施設と地域づくり

子どもと大人が元気になる協力体制のつくり方

発表テーマ	発表者
① 鹿嶋が変わる。市民が変わる。潤いに満ちた暮らしに変える。 ～「遊びこころ」で、楽しく学んで、鹿嶋人の輪を広げる活動を通して～	茨城 かしま灘楽習塾 塾長 君和田 毅
② 1万人アンケートを活用した家庭教育支援 啓発資料『保護者・先生・地域で築こう協力体制』の作成	群馬 桐生市社会教育委員会 議長 大澤 直也
③ 栃木県における地域学校協働活動の推進に資する人的体制整備の充実方策等について ～地域学校協働活動の市町教育委員会に対してのアンケート調査より～	栃木 栃木県立小山西高等学校 教諭 原 昌作
④ 南が丘元気っ子クラブ子ども会について ～公民館と地域力の連携で進める子ども会と地域のあり方～	神奈川 南が丘元気っ子クラブ子ども会 会長 竹内 房枝 副会長 堂田 輝美 青少年育成活動推進部 会長 桜井 和彦 秦野市立南が丘公民館 館長 森田 裕二

市民の手による活動

やりたいことを自分から実現する活動

発表テーマ	発表者
① 自然の中でのびのび育つ子どもたち ～大人も子どもも「やりたい!」が実現できる場づくりの現場から～	福島 森のようちえん こめらっこ 代表 土屋 美香
② 2020 ちばおもてなし隊 ～高校生との提案と参画～	千葉 NPO法人 生涯学習応援団ちば 理事・事務局長 高橋 健之 会員 者 浩之 昭和学院秀英中学校・高等学校2名
③ 「彰往考来」のまちづくり ～歴史的景観の復興をめざした市民・学生・企業による水戸桜川の学びと実践～	茨城 水戸桜川千本桜プロジェクト・ 水戸桜川日本花の会 代表 稲葉 寿郎
④ これからは地域福祉の時代 ～支えあい(自治活動)とふれあい(交流)「共助」の明るい地域づくり～	埼玉 サザン地域支え合い協議会 会長 杉原 行雄 副会長 原田 常子

地域活動と学校

学校と子どもたちが主役の地域活動

発表テーマ	発表者
① 地域課題解決型キャリア教育「市ケ尾ユースプロジェクト」 ～中高生と地域の大人がともに描くまちの未来図～	神奈川 神奈川県立市ケ尾高等学校 市ケ尾ユースプロジェクトメンバー
② 高校生から発信、フューチャーセンターでつながるWA! ～高校生による未来志向の場づくり～	茨城 茨城県立竜ヶ崎第二高等学校 りゅうがさきフューチャーセンター
③ 遊ぶ・学ぶ・体験する放課後の子育て支援と、学校応援の『かつせらんど』 ～地域のネットワーク、家庭の教育力、学校の支え合いの心、3つの連携～	埼玉 富士見市立勝瀬小学校 学校運営支援者協議会 コーディネーター 羽石 貴裕
④ 地域の力を学校に、学校の力を地域に ～子どもたちの自尊感情と生き抜く力のために～	東京 一般社団法人みたかSCサポートネット 代表理事 師橋 千晴 四柳 千夏子

環境・国際に関する活動

環境保護・多文化共生で住民が居心地よくなる活動

発表テーマ	発表者
① 若者が里山づくりの力に。里山が若者を育てる。 ～若者のチームによる長期間の森づくり活動と、多様な若者の参加による森づくり活動～	栃木 NPO法人 トチギ環境未来基地 理事長 塚本 竜也
② 外国出身者との協働による「多言語おはなし会とワークショップ」 ～だれもが生き生き暮らせる多文化共生の街づくりに向けて発信!～	埼玉 あそび舎 てんきりん 代表 芳賀 洋子
③ 赤城の豊かな自然環境を守り育て、活かす。 ～赤城山ツーリズムを通じた、地域の持続的発展をめざした取組～	群馬 NPO法人 赤城自然塾 事務局長 渡辺 聡
④ 民族、国籍、文化を互いに認め合い、共に地域を支えよう ～外国人と地域をつなぐ活動～	茨城 フレンドリーあんず 会長 福地 季子 食と会話を楽しむ会 担当 今野 美千子 他 ALT講師2名

大学・図書館・企業との連携

大学・図書館・企業が地域と共に成長する活動

発表テーマ	発表者
① 「ごみとりサイクル」壁新聞発表 ～東海村のゴミ処理施設を見学して～	企業 東海イオン チアーズクラブ イオンリテール株式会社 北岡東カンパニー 広報・環境社会貢献グループ 竹内 尊司
② 学生が地域で活動する意味 ～常陸大宮市「西塩子の回り舞台」などをお手伝いして～	茨城 茨城大学 学生ボランティア
③ 地域に根差した公共図書館を目指して ～成長する有機体、ゆうき図書館の事例から～	茨城 結城市教育委員会生涯学習課 (ゆうき図書館) 主任 長谷川 拓哉
④ 参画型オリンピック・パラリンピックの実現に向けて ～学生団体おりがみを事例に～	千葉 学生団体おりがみ 代表 都築 則彦

会場A 公民館・施設と地域づくり ①13:45~14:30

鹿嶋が変わる。市民が変わる。潤いに満ちた暮らしに変える。

～「遊びこころ」で、楽しく学んで、鹿嶋人の輪を広げる活動を通して～

かしま灘楽習塾の生い立ちから、教授や塾生が何を考え、何を期待し望んでいるか、これから何を目指していくべきか。

かしま灘楽習塾は、「遊びこころ」をもって「子供から大人まで楽しく学ぶ」をテーマに、市民が学習意欲のある限り、生涯学び続ける場を提供するものです。

市民自らの手で市民のために創りあげる生涯学習の場であり、その運営は行政に頼らない市場原理にもとづく自力運営で行われています。

かしま灘楽習塾 塾長 君和田 毅

【活動の工夫】

- ・多彩な才能、技術、感性を持った人材（市民）を生かして活動している。
- ・公共施設（短期大学跡地）の空き教室を有効活用し、活動している。
- ・行政に頼らず、市民が自主運営をしている。
- ・『「遊びこころ」で大学ごっこ』という発想で、市民のニーズに応じた様々な学部・講座等を開設し、市場原理を上手に導入している。

【活動の成果(○)と課題(□)】

- 市民にとって魅力ある講座が開設され、13年間の取組の中で、講座数、教授数、塾生数等が伸びている。
- 行政の支援は初年度のみで、以後、教授会（市民）が中心となり、自主運営できている。
- 多彩で活気ある講座メニューや広域ネットワークシステムをこれからどうつくっていけばよいか。

【協議】

（参考になった点）

- ・従来型の公民館講座を市民が運営していく形に変えたことや、楽習塾のコンセプトの中でも、特に「市場原理」を導入している点が素晴らしい。
- ・行政に頼らない（補助金をあてにしない）運営が長年なされていることに感動した。
- ・教授会（市民）が中心となって講座が開設されているため、横のつながりが多くなり、スムーズに事業の見直しや改善が図られている点が素晴らしい。

（課題の解決方法）

- ・多彩な講座や活気ある講座作りに向けて、アンケートや塾生等の声から、市民のニーズを把握しながら、魅力ある内容にしていく。
- ・地域ネットワークの構築に向けて、楽習塾で学んだ成果を近隣自治体に広げていくようにしていく。

（まとめ）…今後の活動に向けて（○参加者 ●発表者）

- 「遊びこころ」「市場原理」「自主運営」をキーワードに、市民の手による事業を自分たちの住む地域にも広げていきたい。
- 学校の統廃合等が進んでいる中で、公共施設を市民がどのように有効活用していくかが大切になる。また、講座の実施場所も屋外を利用するなど、これからも工夫・改善していきたい。



会場A 公民館・施設と地域づくり ②14:40~15:25

1万人アンケートを活用した家庭教育支援

啓発資料『保護者・先生・地域で築こう協力体制』の作成

平成26年度に開催した社会教育委員会議定例会の中で、今までの諮問、答申、建議、提案等の話し合いを振り返り、その中より、家庭の教育力や保護者のマナーが低下している現状が浮かび上がりました。また、先生方に目を向けると、分刻みで仕事に追われ、放課後も部活動や会議などがあり、帰宅してから教材研究等の授業の準備をしている実態がありました。その実態を受け、社会教育委員として保護者の意識改革を図り、保護者と先生方の協力体制を築く必要があるとの結論に達しました。そこで、先生方と保護者が協力体制を築くためにアンケートをとろうということになり、それをもとに啓発資料を作成しました。

桐生市社会教育委員会議 議長 大澤 直也

【活動の工夫】

- 社会教育委員が中心となって、1万人アンケートを実施し、保護者、先生それぞれの立場からの意見や考えをもとにした啓発資料を作成した。
- アンケート作成のために4回の定例会と3回の臨時会を開催、プレアンケートの実施等、アンケート内容の精選を図っている。
- アンケート回収後、社会教育委員が3つのグループに分かれ、意見を類型化している。

【活動の成果(○)と課題(□)】

- 保護者自身が家庭教育を振り返る機会となった。
- 学校や園の説明会、懇談会等での啓発資料の活用は、有意義であった。
- 活動を通して、桐生市の教育資源について周知することができた。
- 啓発資料を作成したが、保護者、先生、地域の協力体制づくりまでには至っていない。

【協議】

(参考になった点)

- 保護者の家庭教育における意識を高めていく方法として、保護者、先生を対象とした大規模なアンケートの実施が参考になった。
- 大規模なアンケートを実施し、啓発資料を作成する活動を通して、保護者、先生、地域が協力、連携を図り、子どもたちをよくしていこうとする取組が素晴らしかった。

(課題の解決方法)

- 社会教育委員という立場を活かし、今まで以上に保護者、先生、地域をつなげる活動を推進していく。
- 啓発資料を配付するだけでなく、活用方法を工夫・改善していく。

(まとめ) …今後の活動に向けて (○参加者 ●発表者)

- 保護者、先生、地域の協力体制を築いていくために、自分の市でもアンケート等を実施していきたい。
- 先生には授業に専念してもらい、これまで以上に子どもたちに寄り添ってもらうために、保護者の意識改革を図り、家庭教育を支援していきたい。



会場A 公民館・施設と地域づくり ③15:35～16:20

栃木県における地域学校協働活動の推進に資する人的体制整備の充実方策等について
～地域学校協働活動の市町教育委員会に対してのアンケート調査より～

地域学校協働活動について、国の法令や答申、県の生涯学習振興施策に係る動向、先行研究等を参考に栃木県内 25 市町教育委員会事務局に状況調査を実施しました。調査結果の分析において、社会教育主事とコーディネーターの有用性、教育行政計画の必要性等を明らかにするとともに、推進体制の方向性や課題の解決に資するエビデンスを抽出することができました。

栃木県立小山西高等学校 教諭 原 昌作

【活動の工夫】

- 課題の背景や先行研究をおさえ、調査目的を明確にして調査を実施している。
- 県内 25 市町への調査により、市町レベルでの課題や方向性を導き出している。
- 調査結果より、地域学校協働活動が推進するための人的体制整備を充実させる必要性を数値化して明らかにしている。

【活動の成果(○)と課題(□)】

- 行政における社会教育主事やコーディネーターの必要性や課題を再認識できた。
- 教育行政計画が社会教育主事やコーディネーターの配置や推進状況に大きく影響することが明らかになった。
- 数値化した調査結果をもとに、どうすれば社会教育主事をさらに設置でき、活用できるか。

【協議】

(参考になった点)

- 社会教育主事の有用性を感じ、ぜひ自分の自治体でもこの調査を実施して検証していきたいので、情報提供をしてもらいたい。
- 工業高校では、テクノボランティアとして、グラウンドならし機の溶接や、壊れた車椅子を修理して空に空輸する空とぶ車椅子という活動を行っている。また、地元の小中学校に、プログラミングやはんたづけの出前授業を行うなど、高校生が地域貢献する活動も行ってほしい。

(課題の解決方法)

- 栃木県は、全公立学校に地域連携教員を設置しており、各学校で課題解決に向け地域の力を活用したり、地域に出て活動したりしている。調査結果と実践例から社会教育主事の有用性について明らかにし、国や県、地域との協力体制づくりを図っていくことが大切になる。

(まとめ) …今後の活動に向けて (○参加者 ●発表者)

- 調査結果のデータをこのままにせず、社会教育の充実のために活かしていきたい。



会場A 公民館・施設と地域づくり ④16:30~17:15

南が丘元気っ子クラブ子ども会について

～公民館と地域力の連携で進める子ども会と地域のあり方～

地域のスタッフと南が丘公民館が協働で事業を運営する「南が丘元気っ子クラブ子ども会」は、子ども達の成長に必要な3つの間、「時間」「空間」「人」の間をつくることを目指し、子ども達の居場所づくりを行っています。「子ども会」の運営は保護者ではなく、子育てを終了した世代で、地域活動に意欲がある“おとな”を中心とした住民がスタッフとして運営しています。今回は、会の設立の経過や活動内容や成果、今後の課題などを報告します。

南が丘元気っ子クラブ子ども会 会長 竹内 房枝 副会長 堂田 輝美
青少年育成活動推進部会 会長 桜井 和彦 秦野市立南が丘公民館 館長 森田 裕二

【活動の工夫】

- ・運営スタッフは子育てを終了した世代で意欲のある大人が行っている。
- ・保護者は役員をやらずに済むので参加しやすい。
- ・スタッフ及び中学生リーダーは、無償ボランティアである。
- ・「子ども達の笑顔のために」という合い言葉のもと公民館と協働で活動している。

【活動の成果(○)と課題(□)】

- 親が役員をしないことで会員が増え、公民館を訪れる子どもが増えた。
- 異年齢の交流が進んだことや子ども達と地域の人との関わりが増えた。
- 親や地域の人に活動の楽しさをどのように伝え、子ども会を維持したらよいか。
- 継続的なボランティアの確保をするためにはどのようにすればよいか。

【協議】

(参考になった点)

- ・親が役員をやらなくて良いというところに惹かれた。勿論、やりたい方はやって良いと思うが、役員のなり手がいない現状では、子育てが終わった世代が中心となって活動し、協力するのはとても良いことだと感じた。

(課題の解決方法)

- ・ボランティアの確保については、子ども会のOBや老人会などにも協力してもらい、今後は近隣の中学校や高校にも依頼する。
- ・市の広報で活動の目的や楽しさを伝え、子ども会への加入者とボランティアを呼びかける。

(まとめ) …今後の活動に向けて (○参加者 ●発表者)

○子ども会の理想の形で、今後のモデルになっていた。

- 子ども達の笑顔のために今後も活動していきたいが、後輩の育成のためにも自治体とのさらなる協力・連携体制を構築していく必要がある。



会場B 市民の手による活動 ①13:45~14:30

自然の中でのびのび育つ子どもたち

～大人も子どもも「やりたい！」が実現できる場づくりの現場から～

磐梯山・猪苗代湖をはじめとした豊かな自然に恵まれた福島県猪苗代町で、2018年4月よりスタートした自主保育サークルです。

この町で暮らす子どもたちが、自然のなかでのびのびと自分らしく育つ場をつくりたいと願う父母が集まり立ち上げました。

地域で暮らす赤ちゃんからおじいちゃん・おばあちゃんまで、みんなで育ちあう、自分らしくいられる場になるように日々奮闘する姿をお伝えします。

森のようちえん こめらっこ 代表 土屋 美香

【活動の工夫】

- 地域の自然環境を活かし、親子の触れ合いとなる活動を企画・活動している。
- 種まきから種取りまでの農業体験等、上辺だけではない本物の体験ができるよう工夫している。
- 地域の方々と連携し、幅広い体験活動（伝統的な行事食・伝承遊び等）を設定している。
- 保護者が交代で保育する活動スタイルにし、「助け合う」場としている。
- 幅広く広報活動を実施している。

【活動の成果(○)と課題(□)】

- 子どもたちのチャレンジ精神、体力、コミュニケーション能力が伸びた。
- 地域との結びつきが強くなった。
- 県外からも参加する親子が来るようになった。
- 子どもだけでなく大人にとっても「やりたい」が実現できる場となってきている。
- 運営形態をどうしていけばよいか。
- 保育士の確保、研修をどのようにしていけばよいか。

【協議】

(参考になった点)

- 学校でやっている田植え体験などは、全て教員が準備してあげての体験、こちらでやられているのは、種まきから種取り、さらに販売まで手がけている。本物の体験で大変感銘を受けた。
- 様々な体験活動を通して、ふるさとを大切に思う気持ちが醸成されている。
- 施設を有効に利用されていて、施設側にとっても利用してほしくなる。
- 「見守る」という視点で子どもたちに接するという姿勢が参考になった。

(課題の解決方法)

- 法人化すれば事業は継続しやすいが、カジュアルさが失われるのでは。現時点では自主サークルで。
- 行政に補助金制度があるので、申請してみてもは。
- 保育士の研修は国立青年の家等で行われる研修を利用しては。

(まとめ) …今後の活動に向けて (○参加者 ●発表者)

○種まきから種取りまで素晴らしい取り組み、自分達の事業も見直したい。自信を持って続けてほしい。



会場B 市民の手による活動 ②14:40~15:25

2020 ちばおもてなし隊

～高校生の提案と参画～

2020年の東京オリンピック・パラリンピックで、千葉県では8種目の競技が開催されます。平成29年度のおもてなし隊では、前年に高校生たちがオリンピック・パラリンピックでのおもてなしについて提案した内容（オリンピック・パラリンピックの会場となる幕張新都心のバリアフリーを点検し提言する）を受け、多くの学校の高校生・大学生等が参加をして「街の魅力・バリア点検隊」として活動した概要を高校生の声を交えて発表します。

NPO 法人生涯学習応援団ちば 理事・事務局長 高橋 健 会員 峯 浩之
昭和学院秀英中学校・高等学校 高校生2名

【活動の工夫】

- ・高校生たちが主体的に関わり、提案、参画・実行をしている。
- ・高校生たちの日ごろの取り組みをボランティア活動に結び付ける。→部活動やおもてなし活動 等
- ・2020年までの短期的視野ではなく、オリンピック後も見据えた長期的視野に立った取り組みが行われている。
- ・行政との関わりを盛んに行っている。

【活動の成果(○)と課題(□)】

- 継続的・計画的な活動によって、ボランティア活動への理解が深まるとともに、参加者数が増加(16年18校430人,17年23校604人)
- いろいろな世代・分野と関わり合いながら高校生目線の取組を報告・提案したことで、行政を動かし、障がい者に優しい街づくりへの進展
- ボランティアの基盤づくり、人材づくり
- オリンピック後も持続可能なしくみの確立 等

【協議】

(参考になった点)

- ・点字ブロックの破損や土地管理者の違いによる敷設有無、自動販売機の商品取り出し口の位置に関する提案など、高校生の取り組みは高齢者や障がい者に対する温かい思いやりが感じられ、素晴らしい。
- ・健常者目線に加えて障がい者の利用目線を取り入れるため、利用する地域の方と一緒に活動している。
- ・高校生が参画・実行した結果を、報告会やメディアを通して発表・発信して、さらにそれらを行政に提案したことで、時間を追うごとに少しずつ環境が改善されていること。

(課題の解決方法)

- ・継続的な取り組みにより、大人になってもボランティアを続けられる人たちが多くなるのではないかな。その結果、日本の玄関口として世界中の人たちをもてなすことができるのではないだろうか。

(まとめ) …今後の活動に向けて (○参加者 ●発表者)

- 事前キャンプや2019年の大会で日本語講座やボランティア活動を行い、貢献していきたい。
- 外国人が来ることを他人事ではなく私事としてとらえ、環境改善や心のバリアフリーを推進したい。



会場B 市民の手による活動 ③15:35~16:20

「彰往考来」(しょうおうこうらい)のまちづくり

～歴史的景観の復興をめざした市民・学生・企業による水戸桜川の学びと実践～

水戸桜川千本桜プロジェクトは、“黄門様”徳川光圀公が設定した本来の水戸桜川の復興をめざして平成24年に開始しました。定期的なミーティングで水戸と桜の歴史、桜の管理などの学びを重ね、一歩ずつ植樹や老樹再生に取り組んでいます。高校生も管理活動に参加しています。現在、市民・大学生・企業が日本初の「百本桜のまちづくり」に向けて協議を重ね未来へ歩をすすめています。

水戸桜川千本桜プロジェクト・水戸桜川日本花の会 代表 稲葉 寿郎

【活動の工夫】

- ・プロジェクトの基本理念を「水戸桜川の景観復元～彰往考来のまちづくり～」と設定し、計画段階からスモールステップで事業を運営している。
- ・プロジェクトへの参加者を増やす工夫として、「生涯学習センター講座」を利用したり、「旅行会社との企画ツアー」を設けて、地域と歴史について理解したりするとともに、プロジェクトの意義について理解する機会を多く設けた。
- ・高校生や大学生、地域の子ども会やコミュニティ団体と植樹や管理活動など協働する機会を設けて、異年代によるプロジェクト運営を行っている。
- ・企業との連携を図り、まちづくりにつなげている。

【活動の成果(○)と課題(□)】

- スモールステップで事業を拡大するために、啓発活動・学習活動を定期的に進めたことにより、地域での意義理解を深めることができた。
- 多くの年代が関わる活動にすることで、歴史と事業の意義について理解が得られ、継続につながっている。
- 自治体や企業とも、基本理念の共通理解を図り、各種団体とともに協働で進めている。
- 「千本桜」プロジェクトをさらに拡大させ、千本の桜を実現できるように、継続していきたい。
- 桜の木を増やしていく活動を通して、まちとコミュニティづくりをしていけるように継続したい。

【協議】

(参考になった点)

- ・ネットワークを利用してプロジェクトを動かすことで、企業、自治体、コミュニティ団体を含めたプロジェクトになっていくこと。
- ・高校生や大学生が携わり、小学生に歴史的な内容を教える活動をするなど、異年代での活動することで、プロジェクトの意義を知らせ、事業が世代をこえて継続できること。
- ・「桜を咲かせる」というプロジェクトが、「人のつながりづくり」「まちづくり」「コミュニティづくり」になっていき、啓発活動の重要性が分かった。

(課題の解決方法)

- ・長く継続するためには、大学生や高校生とともに、小学生も事業に取り組むことが大切。世代を超えて継続できるよう、また、小学校などに取り組みを拡大させられるように活動する。
- ・人とのつながりをつくっていくことには、「楽しさ」を共感していく場面が重要。このプロジェクトの場合、ツアーや講義の中で、「楽しさ」を共感していくことでネットワークづくりをしていくことができ、歴史的背景からプロジェクトの意義を理解することができていた。

(まとめ) …今後の活動に向けて (○参加者 ●発表者)

- 小学校の桜の木などについても、「地域で木を守る」という意識づくりをしながら、自治体だけではなく地域の人たちとともに進めていけるように働きかけていきたい。(参考：見川小学校では、地域で学校の桜を守る動きができています)
- 大学生、高校生、小学生とともにプロジェクトを進めることで、継続させていきたい。世代が変わった後も桜の木は育ち続ける。



会場B 市民の手による活動 ④16:30~17:15

これからは地域福祉の時代

～支えあい(自治活動)とふれあい(交流)「共助」の明るい地域づくり～

これからもこの地域での生活が安心・安全に暮らせるために、地域のふれあいの場を増やし、既存の協力団体、大橋市民センター利用者と協力して裕福よりは幸福な生活を実現させるために安心して生活できる環境を構築して行きたいと考えております。

地域の急速的な高齢化に向け、困っている人に耳を傾け、協議会を通して、助け合いと支えあい、地域が一体になるような環境づくり等を心掛け謙虚な気持ちで取り組んでおります。

サザン地域支え合い協議会 会長 杉原 行雄 副会長 原田 常子

【活動の工夫】

- ・協議会は、4委員会、8部会で構成されている。日頃から近所付き合いを大切にしている。最大の特徴としては、「助け合い隊」を組織し、助け合い支援店で使えるありがとう券を利用会員が購入(1枚200円)し、助け合い隊に「ありがとう」の気持ちを伝える形で運営している。他にも多世代交流を促し、13ある自治会交流のための運動会を実施している。

【活動の成果(○)と課題(□)】

- 体育祭を自治体単位の対戦方式から年齢別の運動会にし、参加者が増加した。
- 名称を変えて参加しやすい環境にしている。
→自治体の枠を越えた行事(盆踊り大会)
- 高齢化による近所との交流減少
- 核家族化によるつながりの希薄化
- 自治会加入者の減少に伴う負担感
- 次世代へのバトンパス

【協議】

(参考になった点)

- ・超高齢化を迎える上で「サザン地域支え合い協議会」のような組織があること。
- ・「サザン支え合いだより」を偶数月に発行し、様々な情報を提供していること。
- ・「鶴ヶ島助け合い隊」でありがとう券を発行し、ゴミ出し・草取り・買い出し等の日常生活に困っている人(特に高齢者)に対しての支援が行われていること。
- ・市民センターの一角にコーディネーターを常駐させて運営にあたっていること。
- ・「ありがとう券」1枚あたり、20分200円で、その内50円が運営資金として協議会の事業として使用される。
- ・地域の方々が行事を楽しみにしている。

(課題の解決方法)

- ・ボランティア意識の醸成を図っている。
- ・ボランティアに係る講習会を実施している。

(まとめ) …今後の活動に向けて(○参加者 ●発表者)

○行政には頼れない時代が来る。地域で支えることの大切さを再確認できた。



会場C 地域活動と学校 ①13:45~14:30

地域課題解決型キャリア教育「市ケ尾ユースプロジェクト」 ～中高生と地域の大人がともに描くまちの未来図～

横浜市青葉区には、社会で活躍した豊かな経験を持つ大人がたくさんいます。「市ケ尾ユースプロジェクト」は、そんな大人の方たちをサポートとして、高校生と中学生が地域の課題解決や魅力アップに向けて、アイデアを具体的な企画にし、まちの未来づくりにチャレンジするプロジェクトです。今回は、昨年度の5つのグループの取組と、今年度の新たな取組を紹介します。

神奈川県立市ケ尾高等学校 市ケ尾ユースプロジェクトメンバー

【活動の工夫】

- ・中高生を地域活性化のプロジェクトに取り込んでいる。
- ・会議の工夫＝（えんたくん、ふせん、抱負の木の使用）
- ・地域の特産品（わさび菜）を生かした商品開発（さんどいっかがお）
- ・地域のゆるキャラ「なしかちゃん」を活用して、地域PR動画やグッズ（地域スタンプラリーの景品）の作成
- ・市ケ尾中・高生による高齢者向けの「スマホ講習会」

【活動の成果(○)と課題(□)】

- 地域、家庭、学校の連携の中で、様々な地域住民を巻き込んでの地域活性化を目的とする活動ができています。
- 活動の広がり
（H29 中学生 27 名、高校生 12 名、大人 22 名）
- 地域の特産品（特に野菜）の良さを広められていない。
 - ・PRの仕方
 - ・もっと多くの生産者とつながること

【協議】

（参考になった点）

- ・高校生が、地域のことを考えながら、主体的に活動できていること。（プレゼン能力の高さにも驚いた。）
- ・他地域から通学している生徒もいるので、地元の中学生を巻き込み、地域課題を明確化できている。
- ・プロジェクト開始のきっかけ（NPOからの持ちかけ、市ケ尾高校のコミュニティスクールへの指定）

（課題の解決方法）

- ・活動の広がり（近隣の小・中・高などへのPRの必要性、地域の福祉センターなどへの訪問など）

（まとめ）…今後の活動に向けて（○参加者 ●発表者）

- 新たな取組で、多世代で交流しながら、地域を魅力的にしていく。
- 市ケ尾駅周辺の魅力の発信、地元野菜の販売促進PR、障がいのある子どもを対象としたイベントの開催、地域安全マップの作成。
- 限られた時間の中で、実践することを重視。

○居住地でなくても思いがあれば地域活動はできるのだと思った。仕掛けを考えることが大切である。



会場C 地域活動と学校 ②14:40~15:25

高校生から発信、フューチャーセンターでつながるWA！
～高校生による未来志向の場づくり～

フューチャーセンターは、世代や職種が異なる様々な分野のステークホルダー（利害関係者）が集まり、平等な立場で、未来志向で語り合う場です。その企画・運営を高校生が主体となって行うことで、世代を超えた深い学びと交流の場となり、新たなつながりの輪から地域の課題に対する思いがけないアクションの実現が期待できます。本校での1年間の活動から得た生徒の成長とアクション、2年目の活動へのつながりを紹介します。

茨城県立竜ヶ崎第二高等学校 りゅうがさきフューチャーセンター

【活動の工夫】

- ・高校生が主体的に企画・運営に参加している。
- ・未来の語り場（フューチャーセンター）の設置
- ・アイスブレイクを行うことで、つながりを大切にしている。
- ・えんたくんの活用（地域の方々・大学生・高校生
・行政・メーカーの方）
- ・全国高校生サミットへの参加による情報交換
- ・地域へのアクションを行っている。

【活動の成果（○）と課題（□）】

- 学校という枠を超えた様々な参加者とのつながりを得ることができる。
- 新たなつながりの輪から様々なアイデアが生まれる。
- 高校生の自主性・主体性が高まった。
- 取組の定着と継続
- 地域の大人の参加をどう促すか。
- 新たなアイデアからアクションをどう起こすか。

【協議】

（参考になった点）

- ・中学生や高校生が主体的に企画・運営しているところがすばらしかった。
- ・各種のイベント（サミットや交流会）は教師や教師の知り合いから情報を提供された。

（課題の解決方法）

- ・取組を継続していくのは難しいので、地元に基づいたNPO等と連携していくことも必要なのではないか。
- ・地域の方々に参加を促すためには、若年層向けにフェイスブックなどのSNSによる発信を行うこと、年配層向けにはイベント等に足を運んで活動を知ってもらうことが重要である。

（まとめ）…今後の活動に向けて（○参加者 ●発表者）

- フューチャーセンターの取組は、ぜひ学校の後輩たちにつなげていき、定着と継続を図っていきたい。
- 高校生が自ら企画・運営に携わる素晴らしい活動なので、NPO等と連携したり、SNSやイベントに参加したりするなど年齢層に合わせた広報活動で、今後も広めていってほしい。



会場C 地域活動と学校 ③15:35~16:20

遊ぶ・学ぶ・体験する放課後の子育て支援と、学校応援の『かつせらんど』
～地域のネットワーク、家庭の教育力、学校の支え合いの心、3つの連携～

1. 埼玉県として学校家庭地域連携の基本方針，客観的に見た富士見市としての取組
2. 子供教室と学校応援団，地域住民との繋がりからできた学校支援の形づくり
3. 連携していくための，学校行事 PTA 活動，地域行事の調整や協力の『思い』の共有化
4. 子供の居場所づくりからできる家庭学習支援活動と地域の支え
5. 学校・家庭・地域の協力者が支えあう関係づくりを，下支えする学校の理解
6. 学校にも，家庭にも，地域にも，子供にも成果の見える取組と解決しない課題縮小の努力

富士見市立勝瀬小学校 学校運営支援者協議会コーディネーター 羽石 貴裕

【活動の工夫】

- ・居場所づくり（かつせらんど）と学習支援（ミニかつせらんど）の2本立てで実施している。
 - ・コーディネーターを3人配置することで，人事異動に左右されないしっかりとした運営軸とする。
- <子ども教室>
- ①越境校で，行政区を超えた取り組みで地域の活性化を図る。
 - ②PTA や地域と協力し受付と見守りの役割分担
- <学校運営支援者協議会>
- ①学校の管理下と管理下外の概念を取り払い，様々な活動を実施。
 - ②事業を縦割り，活動に関わる人材を横断的に。

【活動の成果(O)と課題(□)】

- 子どものコミュニケーション能力の向上
- 子どもに対する安心感
- 体験活動の充実による幅広い活動内容
- 学校は安心して学校運営ができるようになった。
- 教師だけでなく，保護者，地域の大人の背中を見て子どもは育つ。
→その子どもは，いずれ地域の担い手となる。
- 行政や学校の人事異動による定着の難しさ
- 学校教育と社会教育の連携の難しさ
- 参加児童の学年が上がると，参加者の減少
- 人材（サポーター）の確保

【協議】

（参考になった点）

- ①コーディネーターの複数（3名）配置：1人だと継続・定着が難しい。
- ②学校運営支援者協議会（14団体20名）の設置：「地域で育つ・知る・かかわる」
- ③緊急時の連絡体制：放課後児童クラブとの登録児童の名簿共有（放課後児童クラブとの連携）

（課題の解決方法）

- ①課題は山積しているが，複数のコーディネーターの配置や，話し合いを多くもつようにしている。
- ②複数のコーディネーター配置により，行政や学校の人事異動によって左右されない運営軸をついている。
- ③様々な体験活動を充実させるために，学校管理下と管理下外の概念を取り払う。
→ピザづくりのための火の使用（ドラム缶ピザの体験）

（まとめ）…今後の活動に向けて（○参加者 ●発表者）

- コーディネーターの担い手の確保が難しいのが本音だが，「子どもの笑顔が見たい」という共通の気持ちでやっている。
- 子どもたちの成長を楽しみつつ，地域の方々との交流の機会として分かち合える場となるように。
- 子どもたちが地域の人たちと交流するきっかけになるように。
- 学校・家庭・地域と一緒に取り組むことで，大人の元気が増える。



会場C 地域活動と学校 ④16:30~17:15

地域の力を学校に，学校の力を地域に

～子どもたちの自尊感情と生き抜く力のために～

三鷹市は，コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育を行っています。子どもたちの義務教育9年間の育ちを，地域も当事者として支援しています。学校と協働し，社会に開かれた教育課程として，防災の授業を先生と一緒に作りあげ実践しています。さらに，その子どもたちを地域の防災訓練に担い手として送り出す，学校と地域のはしわたし役が私たちサポートネットです。具体的な活動事例から，私たちが果たしている役割の重要性について考察します。

一般社団法人みたか SC サポートネット 代表理事 師橋 千晴 四柳 千夏子

【活動の工夫】

- 活動の幅を広げるために法人化した。
- 空き教室を拠点として活動している。
- 市の防災課と連携をはかり，まず自分たちが防災について学んだ。その学んだことを子どもたちに伝える目的で「カンガエル地域防災」を作成したり，まち歩きをして防災マップを作ったりした。
- 学校や学校運営協議会，地域の自主防災組織と連携して，防災授業を推進している。

【活動の成果(O)と課題(K)]

- 地域防災テキスト「カンガエル地域防災」作成
- もしものときのハンドブック作成
- 地域とともに行う防災授業
(義務教育9年間の連続性のある防災教育)
- 子どもたちに自己肯定感，自己有用感を味わわせるために，学校と地域の架け橋となる。
- 教職員の人事異動による活動の理解
- 保育園にも活動の場を広げる(家庭の力)。

【協議】

(参考になった点)

- 一般社団法人にすると，行政からも依頼しやすいことがわかった(任意団体だと難しい)。
- 学習支援と学習ボランティアとの役割を明確にすること。
- 震災をうけて熱い思いを形にし，防災教育を行っているところが素晴らしい。

(課題の解決方法)

- 教職員の人事異動に伴い，理解しにくい部分については，学校運営協議会の組織を活用していく。

(まとめ) …今後の活動に向けて (○参加者 ●発表者)

- 活動を継続していくことは困難ではあるが，仲間とひとつひとつ解決して取り組んでいきたい。
- 小学校に入学した1年生が，なかなか学校に慣れない現状があるため，母親の不安を和らげる活動を行ってきたい。
- 長年にわたり活動を継続してきて，子どもたちが少しずつ変わってきた。今後は，家庭の教育力の育成と合わせて，保育園にも活動の場を広げていきたい。



会場D 環境・国際に関する活動 ①13:45~14:30

若者が里山づくりの力に。里山が若者を育てる。

~若者のチームによる長期間の森づくり活動と、多様な若者の参加による森づくり活動~

様々な原因により手入れが出来なくなって荒れてしまった森林や里山を再生し、新たな活用方法を生み出す若者たちの活躍を紹介。地元の人たちとの協力やチームでの活動、体を使って考えるこれらの経験が若者たちを育てる機会にもなっています。このような機会や活動拠点をこれからどうやって増やしていくか一緒に考えましょう。

NPO 法人トチギ環境未来基地 理事長 塚本 竜也

【活動の工夫】

- ・合宿をしながらボランティア活動をしている。
(若者, 3カ月, 外国人も一緒に)
- ・地域の人たちの想いと若者たちの活動力のコラボレーション。
- ・多様な人々の参加の機会を多く創出している。
(引きこもり, 障害者, 大学生, 親子, 企業)
- ・継続的に里山を利用できるような工夫をしている。

【活動の成果(O)と課題(□)】

- 整備された里山で様々な活動を実施した。
- 地域の人たちの想いを若者と共に活動を進めていくことでお互いプラスの効果がでた。
- NPOとして10年継続している。継続することで、地域の方々からも認知されてきた。
- 場所が限られているので、活動拠点が増えていけばよい。
 - ・活動拠点の分散化, 継続させるための工夫

【協議】

(参考になった点)

- ・資金面はどうなっているのか → 企業からの寄付。自分たちで積極的にアピールしている。幼稚園の里山整備・維持管理と体験活動のパッケージ化や企業の新人研修より捻出している。
- ・お金をかけない工夫について → 施設は活動理念に賛同して下さる方から使っていない建物を格安で提供してもらっている。

(課題の解決方法)

- ・幼少期の子どもを積極的に取り込むと長期にわたって良い方向に向かうのでは。

(まとめ) …今後の活動に向けて (○参加者 ●発表者)

○山の町と川の町の交流をしたらよいのでは。

- 里山を元気にするには、子どもたちが森に来ることが大切。子どもたちにより経験をさせるために里山が大切。今後も活動を継続していきたい。



会場D 環境・国際に関する活動 ②14:40~15:25

外国出身者との協働による「多言語おはなし会とワークショップ」

～だれもが生き生き暮らせる多文化共生の街づくりに向けて発信！～

- 1) 外国につながる子供を取り巻く教育環境の現状と地域の課題⇒立ち上げのきっかけ
- 2) てんきりんの活動の内容 多文化・多世代の学び合いの場の紹介
- 3) 多言語によるおはなし会とワークショップの実際
多様性を認め合うことの楽しさと、コミュニケーションの大切さ
合言葉は、「おなじおなじってうれしいね！ちょっとちがうって楽しいね！」
- 4) 多文化共生社会の実現のために、日本人社会に求められるもの
支援ではなく、同じ地域に暮らす隣人、協働して地域社会をつくっていく隣人として尊敬し合える関係が生まれるはず

あそび舎 てんきりん 代表 芳賀 洋子

【活動の工夫】

- ・外国の方々の魅力を発信できるプログラム。
- ・学校や図書館との連携。
- ・絵本を通してのワークショップ。
- ・参加者の国の挨拶を覚えてもらう。
- ・双方向の学び合いを取り入れる。
- ・出身国の大きな地図や母国語でのあいさつを貼り出す。

【活動の成果(O)と課題(K)]

- 子どもたちの認識の変化「他の人と違っていいんだ」(保健室登校の子にも自信になる)。
- 外国の人が母語を使うと生き生きする(方言や手話を使っている方も同じ、英語が母語の外国人は少ない)。
- 支援ではなく学び合いによって活動が広がる。
- 外国人の魅力を引き出すには？

【協議】

(参考になった点)

- ・活動している自分たちがまず楽しむ。
- ・絵本を通じた活動は取りかかりやすい。
- ・英語だけでなく他の言語に触れる機会をたくさんつくっている。
- ・「日本の役に立っていないのが悲しい」と言われたことを聞いて、「(誰もがもっている) ありがとうって言われたい気持ち」を大切にしている。

(課題の解決方法)

- ・共感・共有できる人を増やす。
- ・(外国人がたくさん働いている) 企業や農家などとの連携を図る。
- ・外国人=欧米人というイメージを変える。

(まとめ) …今後の活動に向けて (○参加者 ●発表者)

○茨城は遅れているので自分たちもなんとかしないと！

●子どもたちに発信力はないので行政に働きかけていきたい。



会場D 環境・国際に関する活動 ③15:35~16:20

赤城の豊かな自然環境を守り育て、活かす。

～赤城山ツーリズムを通じた、地域の持続的発展をめざした取組～

2010年の設立より、①自然環境の保護・保全の推進、②これを実現する人材育成、③自然環境活動を通じた都市部との交流（ツーリズム）促進を目標に掲げ、地域の皆様との連携を基本に実施してきた活動を紹介します。

また、2017年3月、地域連携DMO候補法人として登録され、従来の活動範囲を拡大させ、地元関係者をはじめ、自治体や教育施設などの皆様と連携して実施している赤城山ツーリズム事業について紹介します。

NPO法人赤城自然塾 事務局長 渡辺 聡

【活動の工夫】

- ・ 覚満淵の自然を取り戻すためにササ刈りを実施。
- ・ 自然観察会を実施。
- ・ 活動報告会を実施し、赤城山の状況を理解してもらう。
- ・ 赤城山検定を実施（興味を持ってもらうために）。
- ・ 人材育成→ガイドボランティアの養成講座を実施。
- ・ 赤城山ツーリズム事業の実施。
- ・ 赤城山で外国人モニターツアーを実施。

【活動の成果(O)と課題(□)】

- 赤城山検定は受験者数が減少しているが、メディアを利用しPRしたところ若干増加した。
- 全面氷結した赤城山大沼で氷上ワカサギ釣り等を行う外国人モニターツアーを実施した。
- 環境から観光へシフトしているため、地域の人々が地元で誇りや自信を持ち続けることが課題。
- 参画できる支援者を増やす。

【協議】

（参考になった点）

- ・ NPO法人 理事12名、正会員31名、会員56名 年会費：正会員3000円/会員1000円
- ・ 観光業者等の協力を受け、ツアーを企画している。
- ・ 2002年にサンデンが赤城南麓に工場を建設する際や移転したことで、森林開発や移転後の物流トラックや通勤車両の増加等で地域の皆さんに移転当初はご迷惑をおかけした。そんな地域の皆さんにサンデンの取り組みを理解してもらうための活動をきっかけにNPO法人赤城自然塾が発足した。現在もサンデン赤城事業所では環境保全や地域貢献を目的として様々な事業が続けられている。

（課題の解決方法）

- ・ 高校生会を巻き込むとよいのでは。
- ・ 赤城地区のよいところを研修で利用。
- ・ 伝統工芸品を活用してみるとよいのでは。

（まとめ）…今後の活動に向けて（○参加者 ●発表者）

- 今後も継続的に少しでも地元のためになる活動を展開していきたい。



会場D 環境・国際に関する活動 ④16:30~17:15

民族、国籍、文化を互いに認め合い、共に地域を支えよう
～外国人と地域をつなぐ活動～

当会は、1985年にアジアの子どもたちの教育支援を目的とする「茨城アジア教育基金」を支える会日立グループとして発足しました。現地と交流し、タイ国には図書館、ラオス国には校舎を建設し、教材や遊具等国際協力活動を実施してきました。

一方、国内の在住外国人のために、日本語教室、生け花教室、食文化を通しての交流会や地域の行事紹介をしています。本日は、外国人に直接教えてもらうという料理教室事業も紹介します。

フレンドリーあんず 会長 福地 季子 食と会話を楽しむ会 担当 今野 美千子
他 ALT 講師2名

【活動の工夫】

- ・シャンテ国際ボランティア会との連携(教育支援)
- ・楽しい学校
- ・学び合う工夫(時間を守る, ごみを捨てるなど, ルールも教える)
- ・外国人が孤立しない工夫(英語で情報を伝える)
- ・共有する(参加できない人へもリーフレットなどを配る)
- ・孤立させない工夫(地域のイベントに共に参加)

【活動の成果(O)と課題(O)]

- ALT との交流
(来日したばかりの ALT にも効果的)
- コミュニティと外国人をどうつなぐか(垣根)
地域を共に支える→1つの団体から地域全体へ

【協議】

(参考になった点)

- ・料理を通しての交流(料理は交流のツールになる)
- ・外国の民族文化を残したい(民芸品の紹介)→資金にもなる
- ・国際ボランティア会との連携(チャリティコンサート・寄付)

(課題の解決方法)

- ・情報発信の場をたくさん作る→賛同してくれる仲間を広げる
- ・1つの団体を他が支える(地域全体)

(まとめ) …今後の活動に向けて(○参加者 ●発表者)

○複数団体による交流会の実施

○コミュニティへ多くの外国人の参加のよびかけ

●震災等により、在住外国人が減少した時もあったが、今後も心温まる活動を続けていきたい。



会場E 大学・図書館・企業との連携 ①13:45~14:30

「ごみとリサイクル」壁新聞発表
~東海村のゴミ処理施設を見学して~

- ①イオンリテール株式会社より
イオンの会社概要、環境・社会貢献の取組、イオンチアーズクラブについて紹介させていただきます。
- ②東海イオン チアーズクラブより
小中学生の子どもたちがイオンのお店の周りで環境に関する様々な活動を行っています。環境に興味を持ち、考える力を育てるとともに、集団行動を通じて社会的なルールやマナーを学んでいます。本日は、子どもたちが「ごみとリサイクル」に関する壁新聞の発表を行います。

東海イオン チアーズクラブ

イオンリテール株式会社北関東カンパニー広報・環境社会貢献グループ 竹内 尊司

【活動の工夫】

- ・イオンでは、SDGs「持続可能な開発目標」(国連で採択)の実現をめざし、環境保全のための取組として、環境・社会貢献活動において、地域の子どもたちとともにエコ活動等をしている。
- ・毎年活動のテーマを変えて、「チアーズクラブ」として活動しており、その活動を壁新聞にし、発表会を開催することで意識の向上に努めている。
- ・コーディネーター任命式を行い、日頃の労いと活動の意義を従業員に説明し、モチベーションを高めている。

【活動の成果(O)と課題(K)]

- 地域の子もたちが環境について深く考える活動を通して、社会的なルールやマナーを学ぶことができた。
- 「イオンチアーズクラブサミット大会」を地方の予選大会から全国大会まで行うことで、子どもたちの活動の意欲向上につながり、活躍の場が広がった。
- チアーズクラブの活動回数が店舗間に格差があることや、店長の意識に差がみられる。
- 活動内容の認知度が低い。

【協議】

(参考になった点)

- ・環境教育は学校でもやっているが、企業が保護者を巻き込んで一緒に活動していることで、親子で継続して学ぶことができる。
- ・この活動は、企業側とお客様、両方が得をしている関係が築かれているところがよい。
- ・チアーズクラブの入会は友だちを通して広められており、活動が継続できているところがよい。

(課題の解決方法)

- ・県内のゴミ処理場等、活動場所を広めることができるのではないかと。また、ベルマーク収集など様々な活動に広められる可能性がある。
- ・学校と連携をすることができるのではないかと。
- ・各店舗の意識の格差があるなら、優秀なコーディネーターには表彰する機会を作ってみてはどうか。

(まとめ) …今後の活動に向けて (○参加者 ●発表者)

- 子どもたちの発表がとても楽しそうだった。自分の活動にも「楽しみながら学ぶ」をもっと取り入れたいと思う。
- 環境保全という大きなテーマではあるが、自分の身の回りから再度考えていきたい。
- 行政やメディアを通して、この活動をもっと知っていただきたい。



会場E 大学・図書館・企業との連携 ②14:40~15:25

学生が地域で活動する意味

～常陸大宮市「西塩子の回り舞台」などをお手伝いして～

茨城大学の学生たちは、授業やサークル活動のほかに「学生地域参画プロジェクト（学プロ）」という、学生主体のチームを自主的につくり、メンバーを募って、地域で活動したり、地域のお手伝いを行ったりしています。常陸大宮市で約3年に1度、組み立て・公演が行われる日本最古の組立式回り舞台「西塩子の回り舞台」についても、自主的な形で学生たちが保存会のお手伝いをしています。「学プロ」などによって学生が地域でどのような活動をし、どんなことを学んでいるか、お話ししたいと思います。

茨城大学 学生ボランティア

【活動の工夫】

- ・2005年4月、常陸大宮市と茨城大学との間に地域連携協定が結ばれた。
- ・翌年から、教員、学生による「西塩子の回り舞台」の組み立て等の手伝いが始まる。
- ・2016年、有志の学生が集まり、積極的に竹伐採組立、公演時の裏方等の手伝いを行う。
- ・その後、田植えやイベント等の手伝いを通して保存会との活動を定期的に行うようになる。

【活動の成果(O)と課題(K)]

- 地域の方々(保存会)との心ふれあいが生まれ、信頼関係が深まった。
- 地域の伝統文化を学べるとともに、地域の活性化につながった。
- 学生地域参画プロジェクトの経験を「カケルナニカ」(学外での活動)の運営に生かしている。
- 同じ志をもった学生を集めるのに工夫を要する。少人数だと負担感が増す。

【協議】

(参考になった点)

- ・この活動を通して、学生と保存会の方々との心がふれあい、絆が深まるとともに、地域の伝統文化が次世代に受け継がれていくことができる。
- ・学生と社会人(地域)が交流を持つと「化学反応」が起こり、活動が活性化していく。その一つの取組として、学外でマチカフェ「カケルナニカ」を運営し、高校生や大学生などの活動の活発化を後押ししている。

(課題の解決方法)

- ・学生が地域の中で活動する意味、地域の活動を知る上で、自分の住んでいる地域に目を向け、考える機会をもうける。
- ・活動の魅力伝え、活動を通して体験できる感動(心の充実、やりがい等)を伝えていく。

(まとめ) …今後の活動に向けて (○参加者 ●発表者)

- 地域の魅力を発信しながら、参加者に負担をかけない取組をしていく。
- 2019年の公演に向けて、さらに、地域との交流を深め活動していく。



会場E 大学・図書館・企業との連携 ③15:35～16:20

**地域に根差した公共図書館を目指して
～成長する有機体，ゆうき図書館の事例から～**

ゆうき図書館は平成16年5月に開館以来，地理的要件を問わない図書館サービスを進めてきました。

平成29年度からは指定管理者制度を導入することになりましたが，公益財団法人結城市文化・スポーツ振興事業団が指定されています。

市の出資法人による運営，市民ボランティア活動の舞台提供の立場などから「図書館学の五原則」のひとつ「成長する有機体である」（インドの図書館学者：ランガナタン）ことを今後も志向していきたいと考えています。

結城市教育委員会生涯学習課（ゆうき図書館） 主任 長谷川 拓哉

【活動の工夫】

- ・「役立つ場をつくる」，「知性と感性を磨く場をつくる」，「人と人，人と資料を結ぶ場をつくる」を重点目標に掲げている。
- ・市民協働として，読み聞かせや朗読のボランティア，おりがみ教室，図書館ボランティア（配架，書架整理）などを実践している。
- ・市内，市外を問わず，利用者参加型の図書購入希望アンケートを行っている。

【活動の成果(○)と課題(□)】

- 市民と協働しながら運営をしていることで，住みよいまちづくりにつながっている。
- 利用者参加型の図書購入希望アンケートで，ニーズを反映させる図書館づくりがされている。
- ボランティア団体の新規会員が増えない。
- アンケートを受けての購入可否結果について，公表するかどうか検討している。

【協議】

（参考になった点）

- ・指定管理者制度の導入で，公益財団法人が安定した運営を行っているのがわかった。
- ・図書館以外に様々な施設があり，人が集まる場所になっているのが素晴らしい。
- ・他市町の利用者からのリクエストに応えようとしているのが参考になった。

（課題の解決方法）

- ・市民団体の新規会員を増やすために，サークルにつながるような講座を行ってみてはどうか。
- ・ボランティアの方に任せる機会を増やすことで，やりがい生まれるのではないかと。

（まとめ）…今後の活動に向けて（○参加者 ●発表者）

○市外の利用者のリクエストに応える仕組みをつくりたい。

●子どもの読書活動を推進していきたい。

市民との協働を維持しながら「成長する有機体」でありたい。



会場E 大学・図書館・企業との連携 ④16:30~17:15

参画型オリンピック・パラリンピックの実現に向けて ～学生団体おりがみを事例に～

学生団体おりがみは、「一人でも多くの人に関われるオリンピック・パラリンピックをつくる」ことを目的に、2014年8月から活動を続けてきました。現在は、169人37大学のメンバーが集まり、2020年の東京オリンピック・パラリンピック関連イベントの開催などを行っています。本発表では、学生団体おりがみの創設者より、何故学生が自主的に2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて活動をするようになったのか、また、その具体的な取り組み事例や今後の展望についてお伝えいたします。

学生団体おりがみ 代表 都築 則彦

【活動の工夫】

- オリンピック・パラリンピックの理念（オリンピック＝世界平和、パラリンピック＝共生社会）を踏まえ、様々なイベントを通して、情報発信をしている。
- ・障害のある人のファッションショーやスポーツイベントの開催を行っている。
- ・若者が集まる場を設定し、オリンピック・パラリンピックについて語る機会を作っている（例：福島の高校生・大学生を対象としたアイデアコンテスト）。

【活動の成果(○)と課題(□)】

- 同じ志をもった人たちが集まることで、オリンピック・パラリンピックで何ができるか、どう参画していくのかについて考えを深める機会となった。さらにそこから新しいアイデアを生み出すきっかけとなった。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピックに、今の自分の活動でどのような関わりができるのかについて、会場全体へ問題提起があった。

【協議】

（参考になった点）

- ・発想のユニークさ柔軟さから様々な活動につなげていること。
- ・東京オリンピック・パラリンピックは誰でも初心者であり、だれでも参画できるという考え方。
- ・調査・研究の豊富さ・深さに刺激を受けた。
- ・自分の夢を実現するために、何ができるか、また、そのためにはどうしたらよいのかというように具体的な行動につなげていること。

（課題の解決方法）

- ・同じ考えをもつ人たちとの交流を通して、新たなアイデアを生み出していくこと。

（まとめ）…今後の活動に向けて（○参加者 ●発表者）

- 東京オリンピック・パラリンピックを成功させるために、自分ができることは何かを考えていきたい。
- 1972年札幌オリンピックのレガシーを検証し、2020年東京オリンピックについてまとめる。そして2026年札幌オリンピック招致の活動につなげていきたい。



6 発表者の方へ ～メッセージカードより～

■会場A

【テーマ: 公民館・施設と地域づくり～子どもと大人が元気になる協力体制の作り方～】

発表テーマ	発表者	
①鹿嶋が変わる。市民が変わる。潤いに満ちた暮らしに変える。 ～「遊びこころ」で、楽しく学んで、鹿嶋人の輪を広げる活動を通して～	茨城	かしま灘楽習塾 塾長 君和田 毅
3つのキーワード、特に「遊び心」のあることが継続していくためには重要ですね。		
行政との関わりがどのようになっているかと思いましたが、施設を年間を通し利用できるということで安心しました。教授を募っての講座開設、その結果である受講生の反応はいかがですか？講師に対する不満等はありませんか。民間が楽習塾を運営していること、なおかつ15年も継続していることに驚き、その運営手腕に感動しました。		
資格を問わず、開講基準を5人以上にしたのが、活性化につながっていると思いました。(市場原理)		
「市場原理」言い得て妙の響きでしたが、一方ではプログラムが受講生の好みに左右されていくのではないかと疑問を持ちました。「最低5人」ですから、少なくとも講座は維持できると思います、その辺の調整はどのようにしているのか、機会があれば教えて頂きたいと思います。		

発表テーマ	発表者	
②1万人アンケートを活用した家庭教育支援 啓発資料『保護者・先生・地域で築こう協力体制』の作成	群馬	桐生市社会教育委員会 議長 大澤 直也
大澤さんが最後におっしゃった「地域で少しでも忙しい先生を手伝えないか」「地域で橋渡しができないかと願っている」という言葉に、元教員としては非常に嬉しかった。とにかく子供達に関わる時間があまりにもない現状を公にしたい。		
対人援助職はサービス業とは違います。子ども達、保護者はおお客様ではありません。対等でいられる関係が大切だと感じます。そのような、互いを理解し、思い合える関係性が子どもたちの健やかな成長にも大きく関わってくると思うので、是非、協力体制の重要性をもっと示していって頂ければ幸いです。		
“同じ目的に向かって”ということを大きく訴えることで、一方向にだけ向く気持ち、ともに手を取り、子どもたちの良き成長を願う社会を目指すためには素晴らしい取り組みだと思いました。		

発表テーマ	発表者	
③栃木県における地域学校協働活動の推進に資する人的体制 整備の充実方策等について ～地域学校協働活動の市町教育委員会に対してのアンケート調査より～	栃木	栃木県立小山高等学校 教諭 原 昌作
社教主事講習で忘れかけていたことを思い出すことができました。		
社教主事がいかに有効な人材であるかということを理解してもらえるように頑張っていきたいと思いました。		
昨年一年間苦労してまとめた調査が関東近県の皆様に発表されたこと、大変うれしく思います。		
今後、調査結果が活用され、多くの人たちに参考になることをお祈りいたします。		
地元の中学校では、来年からコミュニティ・スクールを行う準備のため、再任用教員が週1日勤務で来校しているとのことでした。間に合うか心配です。		

発表テーマ	発表者	
④南が丘元気っ子クラブ子ども会について ～公民館と地域力の連携で進める子ども会と地域のあり方～	神奈川	南が丘元気っ子クラブ子ども会 会長 竹内 房枝 副会長 堂田 輝美 青少年育成活動推進部会 会長 桜井 和彦 秦野市立南が丘公民館 館長 森田 裕二
理想の形の子ども会のような気がします。		
老いも若きも協力して子どものために会を盛り上げる、いいですね。		
今年度、息子の子ども会役員を引き受けております。仕事、家庭、役員との両立がとても難しく忙しさを感じています。ですが、行事を行うと自分も楽しめるし、子どもたちの笑顔が見られるのも嬉しく思います。		
どうぞ、今後も子どもたちの笑顔のためにご活躍されることをお祈り申し上げます。		

■会場B

【テーマ：市民の手による活動～やりたいことを自分から実現する活動～】

発表テーマ	発表者	
①自然の中でのびのび育つ子どもたち ～大人も子どもも「やりたい！」が実現できる場づくりの現場から～	福島	森のようちえん こめらっこ 代表 土屋 美香
<p>まだ高校生ですので、アドバイスできることはありませんが、子どもを“育てる”のではなく“育つ”のを見守る事ができる大人への理念が新しいと思いました。</p> <p>新しいことを始めるときに、人・物・情報のネットワークづくりがとても上手だと思いました。</p> <p>私達もボランティアをしている身なので、見習いたいと思いました。</p> <p>保育士さんの充実で長く続けられるように応援しています！「こめらっこ」を取り巻く環境の温かさを感じました。こめらっこはたくさんの人や自然の中で育てるものですね。元気に強く優しく育つことでしょう。ガンバレ～！！</p> <p>お母さん同士も交流が深まり、子どもも伸び伸びと自然の中で生きる術や知識を身につけられることはとてもステキです！！周囲のおじいちゃん、おばあちゃんに見守られて成長すると、心の優しい子になると思います。お話でうかがった「あたたかい雰囲気」を継続して頂きたいと思います。将来、育った子どもたちが戻って来て支えてくれるともっとステキですね。</p> <p>主体性を育む大人を育てる等、たくさん共感できる内容で、素晴らしい発表だと思いました。子どもたちにとって何が大切なのかを考えて保育することが一番大事ですね。私も自らの保育観を見直してみたいと思います。ありがとうございます。</p> <p>始めたばかりのこと、ぜひ続けてください。長く続けるためにはNPO法人化に向けて…が一番ではないでしょうか？保育要領にも研修の大切さが明記されているのでぜひ質を求めて研修会に参加下さい。</p> <p>今やっている活動は、「子どもたちのため」が根っこにあると思います。それが基本ではないでしょうか。自信を持って子どもたちのためにやって下さい。</p> <p>次の世代への種まきができています。頑張っていってください。</p>		

発表テーマ	発表者	
②2020 ちばおもてなし隊 ～高校生の提案と参画～	千葉	NPO法人 生涯学習応援団ちば 理事・事務局長 高橋 健 会員 峯 浩之 昭和学院秀英中学校・高等学校2名
<p>「ちばおもてなし隊」で大学生や地域の方との関わりで学んだ事を、中学生や小学生に伝えてほしいと思いました。</p> <p>2020ちばおもてなし隊のもとNPO、高校がさらに協働し、オクバラを支えてほしいと思います。</p> <p>高校生の純粋な発想を支えるNPO。ステキな関係だと思えます。</p> <p>高校生のお二人、すばらしい発表でした。</p> <p>コンセンサスを得ながら高校生が成長していくことを通し、社会に貢献する人材育成につながっていると思うし、“モデル”となってくると思えます。ぜひ広めてほしい活動です。</p>		

発表テーマ	発表者	
③「彰往考来」のまちづくり ～歴史的景観の復興をめざした市民・学生・企業による水戸桜川の学びと実践～	茨城	水戸桜川千本桜プロジェクト・水戸桜川日本花の会 代表 稲葉 寿郎
<p>継続は力といいますね。これからの活動にエールを送ります。</p> <p>松沢さんの地元、神栖に桜の木が利根川に美しく咲いてほしいと思います。桜と共に神栖の成長を楽しみにしています。</p> <p>アクティブラーニング、地域学校協働など、これからの教育と地域創生につながる取り組みですね。茨城だけでなく、全国に広めてほしい事例だと思えます。</p>		

発表テーマ	発表者	
④これからは地域福祉の時代 ～支えあい(自治活動)とふれあい(交流)「共助」の明るい地域づくり～	埼玉	サザン地域支え合い協議会 会長 杉原 行雄 副会長 原田 常子
<p>鶴ヶ島市の人口減少というお話をしていました。茨城県は、もっともっとそのことが深刻です。活性化より支え合い、いや支え合いができる地域は大丈夫！と思います。頑張ってください。</p> <p>ボランティアで人間力を増やさせてもらったとの考え方に共感しました。</p>		

■会場C

【テーマ：地域活動と学校～学校と子どもたちが主役の地域活動～】

発表テーマ	発表者	
①地域課題解決型キャリア教育「市ケ尾ユースプロジェクト」 ～中高生と地域の大人がともに描くまちの未来図～	神奈川	神奈川県立市ケ尾高等学校 市ケ尾ユースプロジェクトメンバー
<p>聴衆をひきつける発表でした。ありがとうございました。NPO法人まちと学校のみらい 竹原さんにはいろいろとお世話になり、「市ケ尾プロジェクト」の取組は、興味深く、フェイスブック等を閲覧させて頂いています。中高生とともに取り組むために、行政としてどのような働きかけをするか試行錯誤しております。本日の発表はとても参考になりました。ありがとうございました。</p> <p>高校生らしい明るい発表でした。自分たちの活動が、社会の役に立っていることが実感できているのではないのでしょうか。農産物を使った商品は食べてもらうことが一番のPRだと思います。食べてもらう仕掛けを考えることが大事だと思います。</p> <p>発想をカタチにするための連携場所は本当に多種多様です。公的な機関やボランティアのような方々だけでなく、企業や大学など、より専門的にプロジェクトをすすめる力になってくれるところもあると思うので、がんばってください。</p> <p>地域の方々と協力してプロジェクトを行うこと、素晴らしいと思いました。とても興味のある発表でした。</p> <p>中学生から高校生から地域との方々とこのような大きなプロジェクトを立ち上げることは、とても素晴らしいと思いました。私も「さんどいっちがお」食べてみたいです！素晴らしい発表をありがとうございました。</p>		

発表テーマ	発表者	
②高校生から発信、フューチャーセンターでつながるWA！ ～高校生による未来志向の場づくり～	茨城	茨城県立竜ヶ崎第二高等学校 りゅうがさきフューチャーセンター
<p>この大人数の前で発表できるのは、すごいと思います。きっと、これまでの活動が身になっているのだと発表を見て感じました。自分も「水戸市サブリーダーズ」というボランティア団体に入っていますが、やはりボランティアをするときなかなか話せないことがあります。「えんたくん」はとてもいいアイデアだと思います。</p> <p>高校生の活動のひとつとして、フューチャーセンターの開設がされ、地域とのつながりを大事にしようとする思いをパワーを知ることができました。これからも、がんばって継続的に活動して行ってほしいと思います。</p> <p>高校生のはつらつさ、明るさに元気をいただきました。そして、その裏でご指導してくださる先生の存在を感じました。高校生がアイデアを出し、実現に向けてどのようにアクションを行うか、それをしかける大人が必要ですね。地域の魅力ややりがいを感じられるフューチャーセンターの取組みはとても参考になりました。ありがとうございました。</p>		

発表テーマ	発表者	
③遊ぶ・学ぶ・体験する放課後の子育て支援と学校応援の『かつせらんど』 ～地域のネットワーク、家庭の教育力、学校の支え合いの心、3つの連携～	埼玉	富士見市立勝瀬小学校 学校運営支援者協議会 コーディネーター 羽石 貴裕
<p>地域の方の姿を見ながら、子供たちが大人になったときの活動につながる大切な活動であることが分かりました。</p> <p>私は、保育士を目指していて、学校で子ども支援や子育て支援の活動をしています。今回のお話で学んだことを参考にさせていただき、子どもたちの笑顔がたくさん見られるよう、これからも勉強していきたいです。ありがとうございました。</p> <p>現在、行政側で仕事をしています。羽石さんのバイタリティはどこからくるのだろうと考えながら聞いていました。校長先生には、校長先生の立場(学校の管理、働き方改革)、地域の立場(自分達の学校、地域の担い手となる子どもたち)、保護者の立場(体験をさせたい、教育観の違う保護者同士、ケガの責任)などコーディネートするのは本当にご苦労があると思います。羽石さんの地域を思う気持ちが、地域の方々に正しく伝わることが祈っています！！</p>		

発表テーマ	発表者	
④地域の力を学校に、学校の力を地域に ～子どもたちの自尊感情と生き抜く力のために～	東京	一般社団法人みたかSCサポートネット 代表理事 師橋 千晴 四柳 千夏子
<p>「PTA活動」や「オヤジの会」など、正直あまりどのような事しているのか考えるときがなかったのですが、そういう活動を通して、このように地域のためのなる事について何かしようということにつながるんだと思いました。私もみなさんのように行動力のある人間になりたいなとすごく感じました。</p> <p>地域の人々の命を守る取組みがとてもすばらしいと思いました。特に、「自分たちで」と一歩踏み出したところがとても参考になりました。これからもこの素晴らしい活動を続けて下さい。最後に家庭の力の大切さを言うていただきました。まさにそのとおりだと思います。家庭教育の推進もお願い致します。ありがとうございました。</p> <p>子ども達を守るために、自分達は何ができるのだろうということで、様々な工夫を取り入れられてすばらしいと思いました。小さなことの積み重ねが、こういって子ども達を守ることができるので、小さなことでも、大切に、行動に移していけるようにしていきたいです。</p>		

■会場D

【テーマ:環境・国際に関する活動～環境保護・多文化共生で住民が居心地よくなる活動～】

発表テーマ	発表者	
①若者が里山づくりの力に。里山が若者を育てる。 ～若者のチームによる長期間の森づくり活動と、多様な若者の参加による森づくり活動～	栃木	NPO法人 トチギ環境未来基地 理事長 塚本 竜也
荒れた里山を整備し、地域の利用を促していく、この好循環を様々な工夫・取組によって生み出していることに驚きました。		
子ども育成を第一に考えている視点は素晴らしい！		
栃木県内の大学に数年前まで通っていました。NPO法人(大学のサークル)での活動をしたくて入りましたが、「やらされている」感が強く、地域の声も聞いている気がなくて、半年経たずにやめてしまいました。当時、この活動を知っていたらぜひ関わってみたかったなとおもいました。これからも頑張ってください。		
範囲が広い里山づくりは大変なことだと思いますが、若者の力をかりてぜひ継続発展させていただきたいと思いません。応援しています。		
日本の荒れた森を切り開き、子どもたちをはじめとする居場所・活動の場所をつくる、それが素晴らしかったです。幼い頃、カブトムシを探した友だち何人かと自由に森に行った記憶があります。		

発表テーマ	発表者	
②外国出身者との協働による「多言語おはなし会とワークショップ」 ～だれもが生き生き暮らせる多文化共生の街づくりに向けて発信！～	埼玉	あそび舎 てんきりん 代表 芳賀 洋子
日本に慣れ親しんだ外国人は、母国に帰ると、周りの人々と日本への感想、思いから違ってしまって、根っこを見失ってしまう。まず、日本人は日本人としての誇り、ありようをとらえる必要があるのでは。相手もまず1人の人間であることを忘れてはならないと思う。		
困っている外国出身の方を助けてあげなければ、日本人の輪に入れてあげなければという意識が、逆に壁を作っていたのだと思います。気負わずに同じことを喜び、違いを楽しむ気持ちで接していきたいと思いました。		
私はさいたま市の職員ですが、恥ずかしながらこの活動を知りませんでした。私自身、多文化共生に非常に興味があり、もっと様々な活動について知りたいと思いました。		
また、図書館とは一緒にやっているとのことで、ぜひ私のところでもお願いしたいです。何か一緒にできないかと思いました。この場で地元自治体で活躍している団体の発表が聞けて嬉しかったです。ありがとうございました。		

発表テーマ	発表者	
③赤城の豊かな自然環境を守り育て、活かす。 ～赤城山ツーリズムを通じた、地域の持続的発展をめざした取組～	群馬	NPO法人 赤城自然塾 事務局長 渡辺 聡
多くのアイデアを頂きました。すっかり形になっているのでうらやましく思いました。ツアーができるのが非常にうらやましいです。参考にしていきたいと思います。		
これからも赤城山ツーリズムを通じた地域の持続的発展をめざした活動を頑張ってください。発表を聞きながら美しい写真を見て、赤城山に行こうと思いました。		

発表テーマ	発表者	
④民族、国籍、文化を互いに認め合い、共に地域を支えよう ～外国人と地域をつなぐ活動～	茨城	フレンドリーあんず 会長 福地 季子 食と会話を楽しむ会 担当 今野 美千子 他 ALT講師2名
ALTの方は英語を教えますが、料理や文化についてはなかなか話したり、行ったりすることはありません。ぜひそのような機会を地域・学校で行っていただきたいと思います。学校でもそのような機会を待っていると思います。		
解りやすいお話でした。ありがとうございます。		
具体的で地域に根付いた活動がすばらしいです。食、文化、ことば、人と人とのつながりなど、時代によっての関わりが参考になりました。これからぜひ交流していろいろなことを教えてもらいたいです。Thank you so much!!		

■会場E

【テーマ:大学・図書館・企業との連携～大学・図書館・企業が地域と共に成長する活動～】

発表テーマ	発表者	
①「ごみとリサイクル」 壁新聞発表 ～東海村のゴミ処理施設を見学して～	企業	東海イオン チアーズクラブ イオンリテール株式会社 北関東カンパニー広報・ 環境社会貢献グループ 竹内 尊司
<p>男の子1人で頑張っている姿がとてもかわいらしかったです。 チアーズのこと初めて知りました。自分の子どもにも参加させたいと思いました。障がいをもつ子どもたちも入れるようになると、障がい児をもつ母親としては嬉しいです。障がいをもっていると活動の幅が狭いので。</p> <p>壁新聞すばらしかったです！！ぜひ写真に撮らせてもらいたいなあ…と思いました。発表を聞かせてくれてありがとうございます。 無理をして必死にエコ活動をするのではなく、みんながwin-winになり、笑顔で続けられるエコ活動にしていけたらいいなと思いました。</p> <p>地域と地球規模の全体を考えられたご発表だと思います。次の時代にも引き継がれていくよう、ご活躍を応援したくなりました。ありがとうございました。</p> <p>素晴らしい発表をありがとうございました。</p>		

発表テーマ	発表者	
②学生が地域で活動する意味 ～常陸大宮市「西塩子の回り舞台」などをお手伝いして～	茨城	茨城大学 学生ボランティア
<p>「西塩子の回り舞台」は3年に一度の開催であるが、この行事へのお手伝いが皆さんの生きる力になればいいと思います。(地域の人たちと協働で開催できること)(地域の人たちは力強く生きています。) 素晴らしいご活躍でありますので、今後も継続してください。</p> <p>人と人をつなごうとする姿勢が伝わってきて、学生のさわやかな目線がとても好感が持てました。</p> <p>コミュニティスペース、いいですね！ 人集めは大変ですね。みんなが同じ方向を向いてくれるとは限らないし…。でも熱意に賛同してくれる人はいるはず。今後の継続を応援しています。 “自分の地域を見つめ直すよいきっかけ”ホントにこの気づきがよいですね！</p>		

発表テーマ	発表者	
③地域に根差した公共図書館を目指して ～成長する有機体、ゆきき図書館の事例から～	茨城	結城市教育委員会生涯学習課 (ゆきき図書館) 主任 長谷川 拓哉
<p>図書館を大いに利用させていただきます。絵本のコーナーの下の段、低くて選ぶのが大人は大変です。よいアイデアを広めてください。本の背表紙の幅は狭いですし、読み聞かせボランティア多数の願いです。</p> <p>もう少し、市民の目、利用者の目から見た図書館への思いなどを教えていただければと思います。 新川和江さん(詩人と)、市民のつながりが発表時間が少ないので良く分からなかった。 成長する有機体と成長する結城市を、結びつきをもっと解りやすくというか、解るようしていただけるとありがたい。</p> <p>当施設も古い図書をリサイクルブックにする等していましたが、寄贈図書の数が増える要因になる(遺品の処理場にされてしまう)ということで、今は受け付けていません。しかし、リサイクルブックがあることにより、親しみやすい図書館という印象がかなり強くなると思いますので、素晴らしい取り組みを続けていらっしゃるなという印象を受けました。</p>		

発表テーマ	発表者	
④参画型オリンピックの実現に向けて ～学生団体おりがみの取組を中心に～	千葉	学生団体おりがみ 代表 都築 則彦
<p>これからも“本当は活動してみたい”“何かを起こしたい”“何かやってみたい”と思っているけれど、勇気が少し足りない若者を、アクティブにするきっかけづくりや、活動する姿で勇気を与えたりしてほしい。楽しんでください！</p> <p>とても素晴らしい内容を聞いてよかった。若いエネルギーを感じました。オリンピック、パラリンピックに向けて、何か自分のできることを、生徒にさせてあげられることをこれからも見つけていきたい。</p>		

7 情報交換会 1日目 9月22日(土) 17:55~

各発表者、実行委員会、運営スタッフが一同に会し、和やかな雰囲気の中で情報交換会が開催されました。名刺交換タイムや各発表者からの感想など、交流の輪が更に広がる場となりました。



菊池 龍三郎 実行委員長より挨拶



独立行政法人国立青少年教育振興機構
教育事業部 山本 裕一 参事より挨拶



茨城県教育庁総務企画部
志田 晴美 部長より挨拶



豪華なオードブルで胃液もハッスル!



発表者と参加者との情報交換



隅っこでは、とにかく飲むべし!

8 分科会報告 2日目 9月23日(日) 9:00~10:10

2日目からの参加者に、前日の各分科会の事例発表の内容をダイジェストで伝えるとともに、この後のトークセッションの盛り上げにつながることを期するために、分科会報告が行われました。



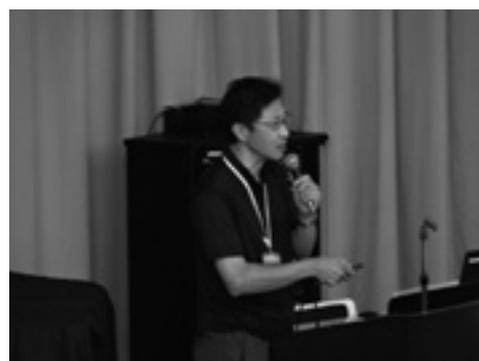
【A会場責任者 木下 健 (行方市)】



【B会場責任者 根本 拓 (笠間市)】



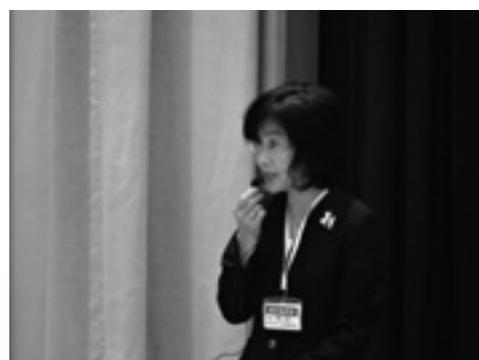
【C会場責任者
小堀 隆弘 (水戸生涯学習センター)】



【D会場責任者
志摩 邦雄 (NPO 法人 インパクト)】



【E会場責任者
宮本 昌枝 (鹿行生涯学習センター)】



【司会 成田 悦子 (鹿行教育事務所)】

9 トークセッション 2日目 9月23日(日) 10:20~11:30

テーマ①「社会教育・生涯学習分野の激動期に、社会教育の到達点と意義を確かめる」

テーマ②「関東から情報発信をするために、関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会が進むべき方向性」

登壇者：一般社団法人全国社会教育委員連合 副会長・常務理事 馬場 祐次郎 氏
茨城県生涯学習・社会教育研究会 会長 長谷川 幸介 氏
コーディネーター：水戸生涯学習センター 次長兼企画振興課長 長谷川 馨 氏

10 クロージング 2日目 9月23日(日) 11:30~

登壇者：茨城県生涯学習・社会教育研究会 副会長 池田 馨 氏

♪登壇者プロフィール♪

千葉県小学校教諭として教職に就き、茨城県小学校教頭・校長として勤務。また、社会教育主事として国立磐梯青年の家、茨城県立社会教育研修センター、茨城県教育庁社会教育課、生涯学習課で社会教育行政に携わり、さらに、茨城県女性プラザ副館長、教育事務所長、茨城県水戸生涯学習センター所長を歴任。

在職中には、茨城県福祉部県民生活課、児童福祉課でも勤務されるなど、学校教育・社会教育だけでなく福祉関係にも携わり、地域活動の重要性を体感されている。

退職後は、NPO 法人ひと・まちねっとわーくの設立に関わり平成 27 年から理事長に就任。また、茨城県生涯学習・社会教育研究会では、副会長として茨城の生涯学習・社会教育の推進に寄与されている。

第4回大会は、全体の参加者が約 100 人増加した。学生の発表や関東近都県からの参加者も増え、幅広い世代が交流する場となってきた。今回初めて分科会報告を行ったが、今まで知ることができなかった他の分科会の様子を垣間見ることができ大変よかった。



トークセッションでは、社会教育の現状について考えさせられた。文部科学省の組織改編など社会の変化が著しい中、私たちの受け止め方が重要になる。さらにこの大会の必要性が高まっていることから、今後茨城県以外からの参加者を増やすとともに、関東近都県の方を実行委員として招き、幅広い意見を取り入れながらこの交流会をよりよいものとしていきたいと考えている。

11 第4回大会を終えて ～主催者からメッセージ～

縦横につなぐ

多様な「つながり」が、私たち人間の日々の暮らしを支えている
そんなことは当たり前で、言い古されたことだ

しかし、その「つながり」が、今、私たちに訴えている
「このままでいいの？」

この地球に誕生してから、私たち人間は、生き抜くためにつながった
幾度もの悲劇を繰り返しながらも、「生きる」幸せを育んできた

しかし、支え続けた「つながり」が、今、私たちに呼びかける
「何かを始めなければ…！」

社会教育は、このつながりを産み出し、励まし、ともに進む英知だ
私たちが今どこに立ち、どこに向かうかを学び、行動を共有する英知だ

9月22、23日、茨城大学に参集した600有余名は共感したと思う
いつだって、どこでだって、人はつながって生きてきた
そして、その行動の先頭に立って歩み続ける仲間がいるということ
20の現場報告は、その悩みと喜びの報告に違いない

世代を縦につなぎ、多様な課題を横につなぎ
人間は幸せを紡ぎ続けている
21世紀の、関東近県の、愉快的な仲間が、ここで、今、紡ぎ続けている

第5回大会はもうすぐだ！
仲間が集まり、英知を確かめ合い
「もうすでに始まっている！」と自信を得るために…

ふり返ると、9月の青空は交流の熱気を残し続けているようだ
年に一度の交流大会は、この参加者の思いを見つめ続けているように思う

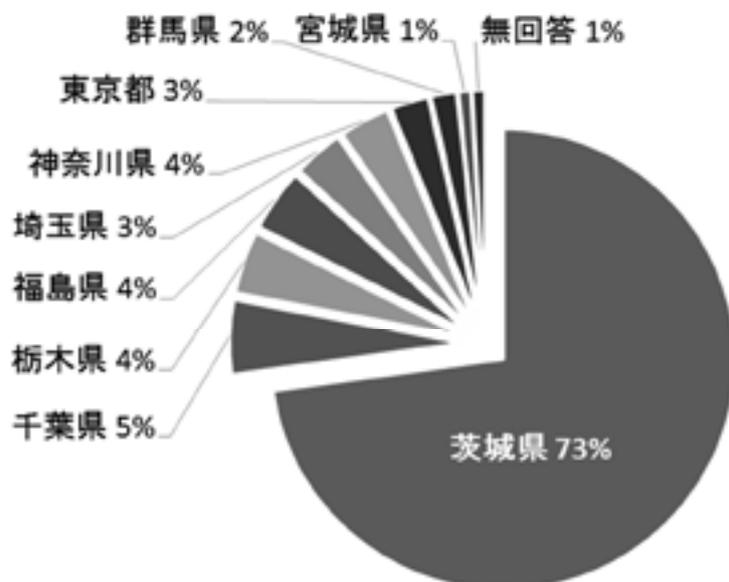
みなさん、お疲れさまでした！ またお会いしましょう！



12 アンケートより (アンケート回収数 114 枚)



1 どちらから参加されましたか

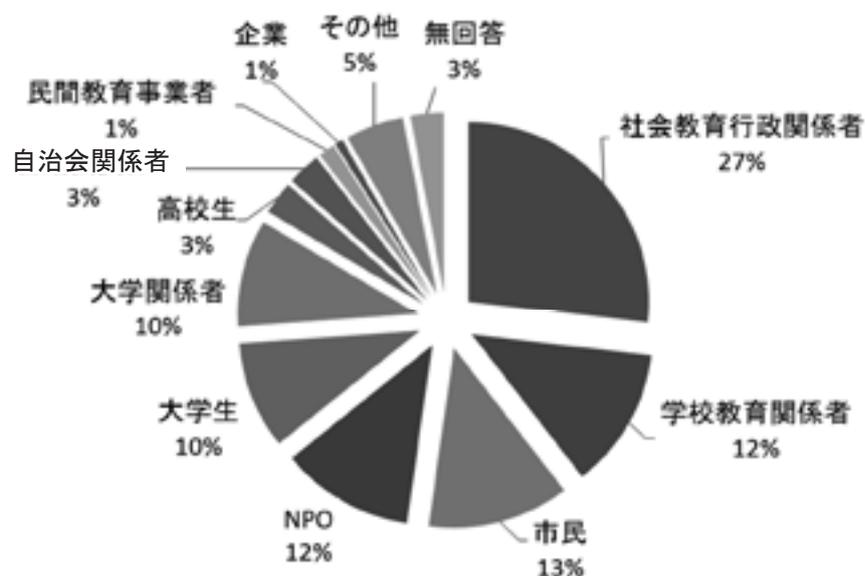


(単位:人)

茨城県	83
千葉県	6
栃木県	5
福島県	5
埼玉県	4
神奈川県	4
東京都	3
群馬県	2
宮城県	1
無回答	1
計	114



2 所属を教えてください (複数回答可)



(単位:人)

社会教育行政関係者	36
学校教育関係者	17
市民	17
NPO	16
大学生	13
大学関係者	13
高校生	4
自治会関係者	4
民間教育事業者	2
企業	1
その他	7
無回答	4
計	134



3 事例発表（1日目）

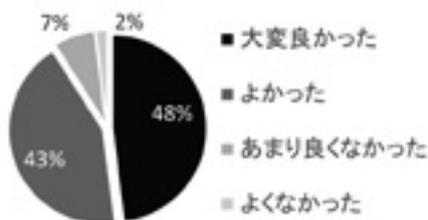


- 交流という面でも同じ課題に取り組むことに対する様々なアイデアをもらうことができた。
- 本日の事例発表は、すべて「地球をよくしたい」「生活をよくしたい」という思いから活動がスタートしていると感じました。行政は上から目線ではなく、その思いを支える気持ちで接しなくてはならないと思いました。
- それぞれの団体の取組がとても参考になりました。地元の子どもの支援活動に生かしたいと思いました。
- 様々な職業の方と触れ合えて良かった。学校と地域のつながりについて考えさせられた。
- 様々な年代、職業の方と協議し講義を聞くことで、自分になかった考え方を得ることが出来た。
- 自分が今まで参加してきたボランティアの運営側の現状を知ることができ、大変参考になった。
- 子どもたちのメッセージ良かったです。子どもたちのために、様々な方面から支援していることがよく分かった。今後、何かに生かせたらと思う。
- 再確認できる良さ、再認識できる良さがこの会のメリットだと感じました。
- 特に高校生の発表が良かった。自信をもち、時にはユーモアを交えながらの発表が良く、県内の多くの高校生に聞かせたいと思った。
- それぞれの組織が前向きに志をもって活動していることが伝わり、励みになった。
- 運営も発表者もきびきびしていて若々しくパワフルで充実した時間でした。
- 自然体験、外国人との関わり等の事例の発表を聞くことができ、とても参考になった。
- 良きリーダーの存在が活動を支えていることを知りました。今後の継続を切望し、自分にも何かできないかと考えました。
- 活動している方々の現在に至るまでの過程、活動内容を聞き、その情熱に圧倒されました。自分達で立ち上げ実行に移していくのは、並大抵なことではなかったと思う。それも皆の為にという思いで始まったことにつけるのかと感心しました。
- NPOや民間の団体が長年活動・実践していることに敬意を表したい。
- 社会教育委員の活動、取組の発表が大変参考になった。
- 今後、自分の地域でできそうな取組がいくつもあって、参加して良かったです。ぜひ、来年は仲間を連れて参加したいと思いました。

- 時間的に難しいかもしれませんが、「質問」→「ディスカッション」→「意見」の流れだと嬉しい。
- 発表の時間が少ない。協議の形態をとっていたが協議にはなっていなかったので、実質的な協議をすべきだと思った。ファシリテーターを配置しては如何か？
- 協議を行う際、人が多い会場だと協議者の声が聞こえず、協議にならないです。
- 活動内容が中心のため、その活動に至るまでの苦労等が分からなかった。参考にしたかったが、知りたかったところがよく伝えられてなかった。
- 内容がバラエティーに富んでいて、選ぶのに迷った。時間が短いので、4つの発表を3つにしてもよいと思った。2日目に1つの事例をもってきてもよいのではと思いました。



4 分科会報告（2日目）



- 会場毎に、どの様な発表があったのかと報告があり、聞くことができなかった内容を知ることができたのはよかった。
- とても勉強になりました。他の分科会での盛り上がりが伺えました。

- 一晩でプレゼンをまとめるのは、大変ご苦労だったかと思います。参加できなかった会場の発表内容を聞くことができたので、大変参考になりました。ただ、発表者の負担が大きいのではないかと心配になりました。
- 発表者が感動話を聴衆に臨場感をもって伝えていたものはよかった。しかし、感動の中身が良

く伝わらない発表もあり、それはよくなかった。

- 発表者は異なる事例報告を短時間でまとめることが求められ大変だったと思いますが、できるだけ簡単にまとめ、感想を含めていただくと理解しやすいと思う。
- 企画がとても良かった。問題は報告者の人選をよく考えてほしいということです。報告者が内容を熟知していない感じを受けた。この報告は来年度もぜひやってほしい。



5 トークセッション（2日目）



- 先生方のお話をとても興味深く拝聴させていただきました。社会教育というと構えてしまいましたが、身近なものが社会教育という一つの流れに繋がっていると知り、私にとって近いものになりました。
 - 自分が今後、社会教育主事として、何をしたらよいのかを教えていただけたような気がします。
 - 社会教育について、“人づくり”が社会教育の原点だという馬場先生の意見が、自分の考えと一致した。
 - 会場から意見を求めるのは難しい。最後に菊池先生が軌道を修正してくださり、重要な点が確認できた。
 - 2人の先生のトークが興味深く笑いを交えて大変参考になりました。『「幸せをつくる」社会をつくれる人間を育てる』という意義を再確認しました。
 - いろいろ考えさせられる内容でよかった。今日のような話をもっと聞きたいと強く感じた。
 - 初めての企画だと思いますが、専門家の考えや思いを伺い大変勉強になりました。今後もテーマを変え続けてほしい。
 - 会場との対話形式がよかった。
- 社会教育の大切さはよく分かったが、社会教育を受ける（勉強する）立場に立っての議論をもう少し行ってほしかった。
 - 社会教育の到達点と意義をきちんと明確にすべきと思う。今回は、このテーマに関する結論がほしくて参加したが、内容が雑談と一般論に終始していた。
 - テーマ①に偏り、前向きな話が多く聞けなかった。質問も不平不満をいうだけで解決しようとする自分の努力・工夫が聞けなかった。



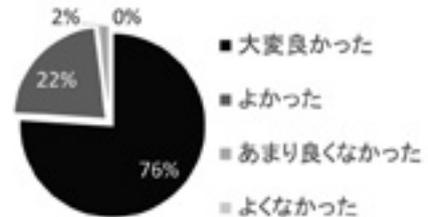
6 クロージング（2日目）



- 客観的、長期的視点に立って、今回の大会の意義と今後の大会の方向性を示されていて納得ができた。
- 熱い思いがとても伝わりました。これからの社会教育、生涯学習に通じる話が聞けました。
- 次年度以降のスケジュールが見えて良かった。短時間でもまとめは必要である。
- 良くまとめていただきました。儀礼的でないのが良かったです。
- 全てのまとめ、感想、今後の会をどう進めていきたいか聞けて良かった。
- 社会教育の可能性、今後の向かう道など、自分の活動への指針となりました。
- 第1回から4回までの流れを知ることができました。また、次回につなげる意気込みは大変だと思いますが、発展させることができればいいなと思いました。
- 本交流会を振り返って、成果・課題が明確になった。トークセッションの足りなかったところを補うなどクロージングにふさわしい内容であった。



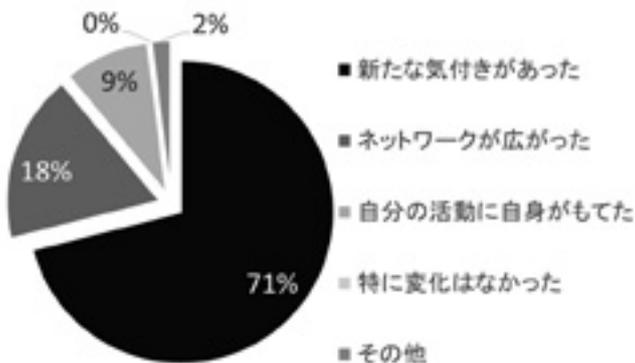
7 本大会全般



- 年々大会が盛大になり，参加者も増え，大変よいと思います。
- 社会教育の大切さが良く分かった。
- 初めての参加ですが，身近なところで活動している多くの方々の努力を知り，良い刺激になりました。
- とても充実した内容でした。ありがとうございました。
- 初めて参加しましたが，勉強になりました。私自身「地域のために・・・」という思いを大切にしたいと思います。
- 運営の方の手際のよい進行のおかげで気持ちよく参加できました。ありがとうございました。
- 関係者の苦勞を感じる。他県へのPRの必要性を感じる。
- もっとテーマをしぼった方がいい。発表に関して，「すごいね」「よくできるね」という賛同の意見ばかりであった。ディベートをさせてみては？



8 この大会をきっかけに，あなた自身にどんな変化がありましたか



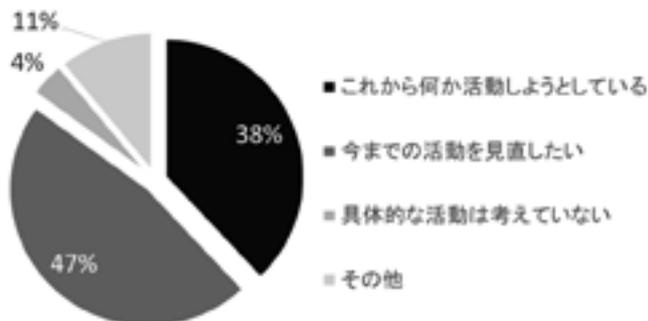
(単位:人)

新たな気付きがあった	81
ネットワークが広がった	21
自分の活動に自身がもてた	10
特に変化はなかった	0
その他	2
計	114

- 子どもや若者のパワーを感じ，自分の活動をかんばろうと思った。
- 本大会を参考に宮城県や東北地方でも同じような会を開催するモチベーションにつながりました。



9 今後の具体的な活動について、どのようにお考えですか



(単位:人)

これから何か活動しようとしている	43
今までの活動を見直したい	53
具体的な活動は考えていない	5
その他	13
計	114

- つながりを大切にしたい。
- 地元の課題に目を向け、様々な方に参加してもらえる事業を展開したい。
- 若いお母さんのパワーに元気をもらいました。
- 中高生の活動の場の確保
- 受験が終わったら今のバリアフリーの活動を再開したい。
- 学校(生徒会)と地域のつながり
- 多文化共生に参加し大変参考になりました。



10 次年度の交流会に参加したいと思いますか

100%

※次年度の交流会には全回答が「参加したい」でした。



11 その他、お気づきの点がございましたら、御意見御感想等、御記入ください

- 社会教育について知らない私ですが、現在の活動が社会教育なのだと思います。
 - 来るたびに様々な新情報を得ることができます。
 - 質疑の前に近くの方々と話し合う機会があったことで自分の考えをまとめることができた。
 - 若い層の参加や女性の参加も多く感じ、とてもよい雰囲気だと思いました。
 - ぜひ、関東近県とのことなので、色々なところで開催されるといいなと思います。
 - 年々充実した発表会になってきました。
 - 人と情報の集まる場となっていてとてもためになりました。
- たくさんの報告会から4つしか聞くことができず残念でした。分科会報告を聞いてさらに残念という気持ちです。
 - どの分科会も時間に追われていた。協議も大切だがもっと深く、具体的な発表が聞きたい。
 - 社会一般の人々にも食いつきやすい現代的な課題を扱ってはどうか。

13 成果と課題 ～スタッフのふりかえりカードより～

成果について

事例発表・分科会について

- ・ハイレベルで聞く人を引きつける魅力的な発表だった。事例発表だけでなく、研究協議の時間を確保していることと、夜に情報交換会を実施していることから、発表者と参加者間の交流が図れた。
- ・分科会の運営を社会教育主事が中心になって行ったことは、研修として非常に良かったという意見が多かった。

参加者について

- ・「今年度の質の高さを維持することが大会を継続する意味にも繋がる」「県内で素晴らしい実践発表が開催されていることは誇りである」等の意見をたくさんいただき、参加者の満足度が高かった。
- ・協議・メッセージカードがあったことでより積極的に話し合いに参加する姿がみられた。会場責任者からは、カードによって協議が深まったという意見をいただいた。
- ・小学生、高校生、大学生の事例発表を取り入れたことによって、参加者の年齢層や所属の幅が広がった。
- ・本大会が社会教育委員の研修を兼ねたため、分科会の研究協議に社会教育関係の参加者が増え、専門的な意見をいただくことができた。

交流会の運営について

- ・事前に分科会担当者に、仕事のマニュアルや記入の仕方、発表者の資料等を送付し当日の内容を確認してもらったため、分科会は、とてもスムーズだった。担当者からは、「当日の不安がなく、係の活動に取り組めた」「社会教育主事として深く考えるきっかけとなった」「準備の段階で様々な用意がしてあった」等のご意見をいただいた。
- ・全体会場、分科会会場、受付、駐車場のスタッフがそれぞれ役割を意識し、責任をもって仕事を果たしたため、参加者から感謝やねぎらいの言葉をいただいた。
- ・全県下の社会教育に携わる方が当事者意識をもって取り組めたことは大きな成果であるという意見をいただいた。

分科会報告について

- ・1日目に他の分科会に出席した参加者や2日目からの参加者に分科会全体の内容を伝えることができた。
- ・分科会報告用スライドがあったことで、2日目参加者に分科会の様子が伝わりやすくなった。

トークセッションについて

- ・会場参加型のトークセッションは一体感がありとても良かった。専門的な内容を身近な事例を挙げて対話していただいたため、社会教育関係者だけでなく、一般市民や学生も、社会教育について理解を深めることができた。

課題について

事例発表・分科会について

- ・事前確認でパワーポイントの動画が動かないアクシデントがあった。映像が入っている時は、発表者自身のパソコンを持参してもらった方がよい。また、パソコンのスペックも合わせて確認しておく必要がある。
- ・事例発表者と分科会司会者等で課題や検証の結果を確認する時間があると研究協議が深まるという意見をいただいた。パワーポイントや当日資料に成果と課題を明確に示してほしいという声もあった。事前の発表者との連絡の取り方について検討が必要である。
- ・分科会記録用紙の提出や2日目への情報提供の方法については、時間に無理があったため、改善が必要である。
- ・協議・メッセージカードとアンケートは色を変えることで、混乱を防ぎ、回収率を上げるようにする。
- ・事例発表や研究協議の時間が短いという意見をいただいた。発表団体の数や1コマの時間の長さ等、日程の検討が必要である。
- ・会場の混み具合に差がある。人数が少ないところは、事前に調整し、参加者が多く見込まれるところはD棟 201 を割り当てるなど参加者の人数を考慮する必要がある。

2日目の内容について

- ・分科会報告は、持ち時間の中で発表者の代理をするのは責任が重いので、司会者が分科会のテーマや意味づけを説明する等、会場責任者のハードルを下げる工夫があるとよい。

広報について

- ・本大会に関心をもっている大学の先生が増えているという意見をいただいた。次年度は、関東近県の社会教育主事養成課程を有している国立・私立大学全てにパンフレットを送付する。
- ・事例発表のテーマに関わる関係団体への広報が足りなかったため、パンフレットの配布先の検討が必要である。

開催方法について

- ・9月下旬で当日気温が高かったため、事例発表者に飲料水を提供できるとよいという意見をいただいた。予算等を確認し、検討する。
- ・茨城大学は会場としては使いやすいという意見が多い。しかし、発表者のパソコンのスペックが高く、教育学部B棟のパソコンや接続機器では対応が難しくなっている。
- ・学生については、授業で動画を見せることも参加として認めるなど、遠隔授業や動画配信のような開催方法について意見をいただいた。
- ・大会を1日で開催できると分科会とトークセッションのつながりがわかりやすくなり情報交換会の開催が生かされるのではないかという意見をいただいた。

実行委員の組織体制について

- ・関東近県の実行委員会であることを意識し、他県からも実行委員を選出し、連携を密にすることで活動、交流を広げていくことが大切である。今後、茨城県だけでなく他県開催も視野にいれながら検討していく必要がある。

facebook

ライブ

写真

チェックイン



関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会

菊池 龍三郎さんの投稿
9月22日



大会速報として、各分科会で発表を終えた発表者に感想をいただき、本会のfacebookページにUPしました。分科会の雰囲気伝わります、発表者の本音もチラリでした。

Facebook post content including text and images from the event.

【大会速報】(広報部より)
会場Aチーム ～大学・図書館・企業との連携～
①「ごみとリサイクル」登壇開始
東海インテグレーションの子どもたちが「ごみとリサイクル」に関して持っている活動や取り組みについて発表しました。ごみ処理施設も見学し、ごみが新しい資源になることやゴミを減らす必要性を学び、さらにゴミ拾い、ゴミの分別回収・分別の活動などについて学びました。また、最後に立ち止まらないうちで「ごみとリサイクル」の取り組みを振り返り、ごみとリサイクルの取り組みを振り返りました。

発表終了後、子どもたちはお母さんや先生と一緒に「ごみとリサイクル」の取り組みについて話し合いました。お母さんや先生は子どもたちの発表を聞いて、ごみとリサイクルの取り組みについて改めて考えることができました。

【大会速報】(広報部より)
会場Bチーム ～公民館・地域づくり～
①「ごみとリサイクル」登壇開始
おはようございます。ごみとリサイクルの取り組みについて発表しました。ごみ処理施設も見学し、ごみが新しい資源になることやゴミを減らす必要性を学び、さらにゴミ拾い、ゴミの分別回収・分別の活動などについて学びました。また、最後に立ち止まらないうちで「ごみとリサイクル」の取り組みを振り返り、ごみとリサイクルの取り組みを振り返りました。

発表終了後、子どもたちはお母さんや先生と一緒に「ごみとリサイクル」の取り組みについて話し合いました。お母さんや先生は子どもたちの発表を聞いて、ごみとリサイクルの取り組みについて改めて考えることができました。

【大会速報】(広報部より)
会場Cチーム ～公民館・地域づくり～
①「ごみとリサイクル」登壇開始
おはようございます。ごみとリサイクルの取り組みについて発表しました。ごみ処理施設も見学し、ごみが新しい資源になることやゴミを減らす必要性を学び、さらにゴミ拾い、ゴミの分別回収・分別の活動などについて学びました。また、最後に立ち止まらないうちで「ごみとリサイクル」の取り組みを振り返り、ごみとリサイクルの取り組みを振り返りました。

発表終了後、子どもたちはお母さんや先生と一緒に「ごみとリサイクル」の取り組みについて話し合いました。お母さんや先生は子どもたちの発表を聞いて、ごみとリサイクルの取り組みについて改めて考えることができました。

【大会速報】(広報部より)
会場Dチーム ～公民館・地域づくり～
①「ごみとリサイクル」登壇開始
おはようございます。ごみとリサイクルの取り組みについて発表しました。ごみ処理施設も見学し、ごみが新しい資源になることやゴミを減らす必要性を学び、さらにゴミ拾い、ゴミの分別回収・分別の活動などについて学びました。また、最後に立ち止まらないうちで「ごみとリサイクル」の取り組みを振り返り、ごみとリサイクルの取り組みを振り返りました。

発表終了後、子どもたちはお母さんや先生と一緒に「ごみとリサイクル」の取り組みについて話し合いました。お母さんや先生は子どもたちの発表を聞いて、ごみとリサイクルの取り組みについて改めて考えることができました。

【大会速報】(広報部より)
会場Eチーム ～公民館・地域づくり～
①「ごみとリサイクル」登壇開始
おはようございます。ごみとリサイクルの取り組みについて発表しました。ごみ処理施設も見学し、ごみが新しい資源になることやゴミを減らす必要性を学び、さらにゴミ拾い、ゴミの分別回収・分別の活動などについて学びました。また、最後に立ち止まらないうちで「ごみとリサイクル」の取り組みを振り返り、ごみとリサイクルの取り組みを振り返りました。

発表終了後、子どもたちはお母さんや先生と一緒に「ごみとリサイクル」の取り組みについて話し合いました。お母さんや先生は子どもたちの発表を聞いて、ごみとリサイクルの取り組みについて改めて考えることができました。

【大会速報】(広報部より)
会場Fチーム ～公民館・地域づくり～
①「ごみとリサイクル」登壇開始
おはようございます。ごみとリサイクルの取り組みについて発表しました。ごみ処理施設も見学し、ごみが新しい資源になることやゴミを減らす必要性を学び、さらにゴミ拾い、ゴミの分別回収・分別の活動などについて学びました。また、最後に立ち止まらないうちで「ごみとリサイクル」の取り組みを振り返り、ごみとリサイクルの取り組みを振り返りました。

発表終了後、子どもたちはお母さんや先生と一緒に「ごみとリサイクル」の取り組みについて話し合いました。お母さんや先生は子どもたちの発表を聞いて、ごみとリサイクルの取り組みについて改めて考えることができました。

【大会速報】(広報部より)
会場Gチーム ～公民館・地域づくり～
①「ごみとリサイクル」登壇開始
おはようございます。ごみとリサイクルの取り組みについて発表しました。ごみ処理施設も見学し、ごみが新しい資源になることやゴミを減らす必要性を学び、さらにゴミ拾い、ゴミの分別回収・分別の活動などについて学びました。また、最後に立ち止まらないうちで「ごみとリサイクル」の取り組みを振り返り、ごみとリサイクルの取り組みを振り返りました。

発表終了後、子どもたちはお母さんや先生と一緒に「ごみとリサイクル」の取り組みについて話し合いました。お母さんや先生は子どもたちの発表を聞いて、ごみとリサイクルの取り組みについて改めて考えることができました。

【大会速報】(広報部より)
会場Hチーム ～公民館・地域づくり～
①「ごみとリサイクル」登壇開始
おはようございます。ごみとリサイクルの取り組みについて発表しました。ごみ処理施設も見学し、ごみが新しい資源になることやゴミを減らす必要性を学び、さらにゴミ拾い、ゴミの分別回収・分別の活動などについて学びました。また、最後に立ち止まらないうちで「ごみとリサイクル」の取り組みを振り返り、ごみとリサイクルの取り組みを振り返りました。

発表終了後、子どもたちはお母さんや先生と一緒に「ごみとリサイクル」の取り組みについて話し合いました。お母さんや先生は子どもたちの発表を聞いて、ごみとリサイクルの取り組みについて改めて考えることができました。

【大会速報】(広報部より)
会場Iチーム ～公民館・地域づくり～
①「ごみとリサイクル」登壇開始
おはようございます。ごみとリサイクルの取り組みについて発表しました。ごみ処理施設も見学し、ごみが新しい資源になることやゴミを減らす必要性を学び、さらにゴミ拾い、ゴミの分別回収・分別の活動などについて学びました。また、最後に立ち止まらないうちで「ごみとリサイクル」の取り組みを振り返り、ごみとリサイクルの取り組みを振り返りました。

発表終了後、子どもたちはお母さんや先生と一緒に「ごみとリサイクル」の取り組みについて話し合いました。お母さんや先生は子どもたちの発表を聞いて、ごみとリサイクルの取り組みについて改めて考えることができました。

【大会速報】(広報部より)
会場Jチーム ～公民館・地域づくり～
①「ごみとリサイクル」登壇開始
おはようございます。ごみとリサイクルの取り組みについて発表しました。ごみ処理施設も見学し、ごみが新しい資源になることやゴミを減らす必要性を学び、さらにゴミ拾い、ゴミの分別回収・分別の活動などについて学びました。また、最後に立ち止まらないうちで「ごみとリサイクル」の取り組みを振り返り、ごみとリサイクルの取り組みを振り返りました。

発表終了後、子どもたちはお母さんや先生と一緒に「ごみとリサイクル」の取り組みについて話し合いました。お母さんや先生は子どもたちの発表を聞いて、ごみとリサイクルの取り組みについて改めて考えることができました。

詳しくは、本交流会のページにアクセス！

參考資料

☆発表後の協議でカードをもとに話し合いをもちたいと思います。発表を聞きながら、カード上段に発表についてのご意見をまとめておいてください。
☆カードは、発表者にお渡しするため、回収させていただきます。カード下段の発表者へのメッセージもご記入下さい。
☆ご意見ご感想については、報告書や今後の交流会に活かしていきたいと思いますのでご協力よろしくお願いいたします。

*** 協議カード ***

※当てはまる会場・時間の番号に○を付けてください。

会場(A B C D E) 番号(① ② ③ ④)

○どんなところが参考になりましたか。

○課題の解決方法（ご自身の経験等から助言できることを書いてください。）

○今後どのような活動に取り組んでみたいと思われましたか。

*** 発表者の方へメッセージカード ***

.....

第4回大会 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会アンケート

本大会へのご参加ありがとうございました。今後の参考としますので、アンケートへのご協力をお願いいたします。該当する項目に○を、感想欄には、ご意見ご感想をご記入ください。

1 どちらから参加されましたか。

福島県 茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県
その他 ()

2 所属を教えてください。(○を付けてください。複数回答可)

一般市民 学生 (中学生 高校生 大学生) 企業
大学関係者 自治会関係 民間教育事業者 NPO
幼稚園、保育園関係者 学校教育関係者 社会教育行政関係者
その他 ()

3 事例発表 (1日目)

評価：当てはまる番号 (4：大変良かった 3：よかった 2：あまり良くなかった 1：よくなかった)
に○を付けてください。

評価	感想
4 3 2 1	

1日目のみ参加の方、裏面にも記載願います。 ご参加・ご協力ありがとうございました。

4 分科会報告 (2日目)

評価：当てはまる番号 (4：大変良かった 3：よかった 2：あまり良くなかった 1：よくなかった)
に○を付けてください。

評価	感想
4 3 2 1	

5 トークセッション (2日目)

評価	感想
4 3 2 1	

6 クロージング (2日目)

評価	感想
4 3 2 1	

7 本大会全般

評価	感想
4 3 2 1	



LINK to Action!

“自分らしい未来”のための現場報告

第4回

実践研究交流会 生涯学習・社会教育 関東近県

開催日 平成30年9月22日(土)～23日(日)
会場 茨城大学 水戸キャンパス
参加費 無料
対象者 学びを通じた地域の課題解決に関心がある方
(誰でも参加できます!)

主催 茨城県教育委員会, 茨城県生涯学習・社会教育研究会
主管 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会実行委員会
協賛 NPO法人ひと・まちねっとわーく, NPO法人インパクト
(公財)茨城県教育財団, NPO法人日本スポーツ振興協会
(公財)日本教育公務員弘済会茨城支部
後援 福島県教育委員会, 栃木県教育委員会, 群馬県教育委員会, 埼玉県教育委員会
千葉県教育委員会, 神奈川県教育委員会, 国立青少年教育振興機構
茨城県社会教育委員連絡協議会, 茨城県公民館連絡協議会
協力 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター, 茨城大学社会連携センター
茨城県教育庁社会教育主事会



激動期に、 社会教育の到達点と 意義を確かめるために

本交流会も第4回目を迎えた。回を重ねるたびに本会の重要性を強く意識する。それは二重の意味でこの時期が激動期であるからだろう。

第1は、日本社会を取り巻く内外の変化である。それは、日本という社会の変化だけでなく、そこに暮らす人々(高齢者や子ども、男女、障がい者、外国人…)のライフスタイルの変化をも生み出す渦である。

第2は、社会教育・生涯学習分野の激動である。社会の変化に立ち向かい、その解決策を協働・学習の中で生み出してきたこの分野に、大きな波が押し寄せてきているように感じられる。

だからこそ、本交流会の現代的意義は高い。若者の発表も増加してきている。ぜひ、この波に立ち向かう私たちの活動の到達点と出発点を確かめ合いたいと思う。

関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会

実行委員長

茨城大学名誉教授

菊池 龍三郎

社会教育実践には、その一つひとつに物語があります。

- あなたも、その物語に入り込んでみませんか
- あなたも、あなたの物語を考えてみませんか
- あなたとみんなの『幸せ物語』を創ってみませんか

DAY 1
9月22日(土)

- オープニング 13:00～(教育学部棟)
- 事例発表 13:45～(教育学部 各教室)

① 13:45～14:30 ② 14:40～15:25 ③ 15:35～16:20 ④ 16:30～17:15

- 情報交換会 17:55～(茨城大学生協食堂)

公民館・施設と 地域づくり

子どもと大人が元気になる協力体制のつくり方

発表テーマ		発表者
① 鹿嶋が変わる。市民が変わる。潤いに満ちた暮らしに変える。	茨城	かしま灘楽習塾 塾長 君和田 毅
② 1万人アンケートを活用した家庭教育支援啓発資料『保護者・先生・地域で築こう協力体制』の作成	群馬	桐生市社会教育委員会議 議長 大澤 直也
③ 栃木県における地域学校協働活動の推進に資する人的体制整備の充実方策等について～地域学校協働活動の市町教育委員会に対してのアンケート調査より～	栃木	栃木県立小山西高等学校 教諭 原 昌作
④ 南が丘元気っ子クラブ子ども会について～公民館と地域力の連携で進める子ども会と地域のあり方～	神奈川	南が丘元気っ子クラブ子ども会 会長 竹内 房枝 副会長 溝口 雅之

市民の手に よる活動

やりたいことを自分から実現する活動

発表テーマ		発表者
① 自然の中でのびのび育つ子どもたち～大人も子どもも「やりたい!」が実現できる場づくりの現場から～	福島	森のようちえん こめらっこ 代表 土屋 美香
② 2020 ちばおもてなし隊 ～高校生の提案と参画～	千葉	NPO法人 生涯学習応援団ちば 理事・事務局長 高橋 健 会員 峯 浩之 昭和学院秀英中学校・高等学校2名
③ 「彰往考来」のまちづくり 歴史的景観の復興をめざした水戸桜川の学びと実践	茨城	水戸桜川千本桜プロジェクト・ 水戸桜川日本花の会 代表 稲葉 寿郎
④ これからは地域福祉の時代	埼玉	サザン地域支え合い協議会 会長 杉原 行雄 副会長 原田 常子

地域活動と学校

学校と子どもたちが主役の地域活動

会場C	発表テーマ		発表者
	①	地域課題解決型キャリア教育「市ケ尾ユースプロジェクト」 ～中高生と地域の大人がともに描くまちの未来図～	神奈川県立市ケ尾高等学校 市ケ尾ユースプロジェクトメンバー
	②	高校生から発信, フューチャーセンターでつながるWA! ～高校生による未来志向の場づくり～	茨城県立竜ヶ崎第二高等学校 りゅうがさきフューチャーセンター
	③	遊ぶ・学ぶ・体験する放課後の子育てで支援と, 学校応援の『かつせらんど』 ～地域のネットワーク, 家庭の教育力, 学校の支え合いの心, 3つの連携～	富士見市立勝瀬小学校 学校運営支援者協議会 コーディネーター 羽石 貴裕
	④	地域の力を学校に, 学校の力を地域に ～子どもたちの自尊感情と生き抜く力のために～	一般社団法人みたかSCサポートネット 代表理事 師橋 千晴 四柳 千夏子

環境・国際に関する活動

環境保護・多文化共生で住民が居心地よくなる活動

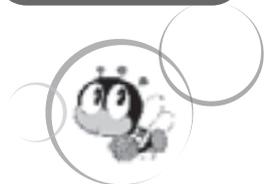
会場D	発表テーマ		発表者
	①	若者が里山づくりの力に。里山が若者を育てる。 ～若者のチームによる長期間の森づくり活動と, 多様な若者の参加による森づくり活動～	NPO法人 トキ 環境未来基地 理事長 塚本 竜也
	②	多文化共生の街づくりに向けて発信! 外国出身者との協働による「多言語おはなし会とワークショップ」	あそび舎 てんきりん 代表 芳賀 洋子
	③	赤城の豊かな自然環境を守り育て, 活かす。 ～赤城山ツーリズムを通じた, 地域の持続的発展をめざした取組～	NPO法人 赤城自然塾 事務局長 渡辺 聡
	④	民族, 国籍, 文化を互いに認め合い ～共に地域を支えよう～	フレンドリーあんず 会長 福地 季子 食と会話を楽しむ会 担当 今野 美千子

大学・図書館・企業との連携

大学・図書館・企業が地域と共に成長する活動

会場E	発表テーマ		発表者
	①	「ごみとりサイクル」 壁新聞発表	企業 東海イオン チアーズクラブ イオンリテール株式会社 北関東カンパニー広報・ 環境社会貢献グループ 竹内 尊司
	②	学生が地域で活動する意味 ～常陸大宮市「西塩子の回り舞台」などをお手伝いして～	茨城 茨城大学 学生ボランティア
	③	地域に根差した公共図書館を目指して ～成長する有機体, ゆうき図書館の事例から～	茨城 結城市教育委員会生涯学習課 (ゆうき図書館) 主任 長谷川 拓哉
	④	参画型 オリンピックの実現に向けて ～学生団体おりがみの取組を中心に～	千葉 学生団体おりがみ 代表 都築 則彦

DAY2
9月23日(日)



- 分科会報告 9:00～ (教育学部棟)
- トークセッション 10:20～ (教育学部棟)
 - 〈登壇者〉馬場 祐次朗氏(一般社団法人全国社会教育委員連合副会長・常務理事)
長谷川 幸介氏(茨城県生涯学習・社会教育研究会会長)
 - 〈コーディネーター〉長谷川 馨氏(茨城県水戸生涯学習センター次長兼企画振興課長)
- クロージング 11:30～ (教育学部棟)
 - 〈登壇者〉池田 馨氏(茨城県生涯学習・社会教育研究会副会長)

第4回大会 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会 【参加申込書】

FAX : 029-301-5339

[茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 振興担当 齋藤] 宛て



ふりがな				性別				
氏名				男 ・ 女				
所属			役職					
連絡先	電話 :							
	電子メール :							
大会の出欠等 ※ 希望する事項に○をつけてください。								
第1日目 9月22日(土)	参加 ・ 不参加							
	事例発表	①13:45 ~14:30	会場	A	B	C	D	E
		②14:40 ~15:25	会場	A	B	C	D	E
③15:35 ~16:20		会場	A	B	C	D	E	
④16:30 ~17:15		会場	A	B	C	D	E	
※ 大学周辺には、飲食店等が少ないので、御了承ください。	情報交換会	参加 ・ 不参加						
		※ 情報交換会は、会費制です。【会費：3,000円】						
第2日目 9月23日(日)	参加 ・ 不参加							

《申込締切》 平成30年9月3日(月)

《参加方法》 参加申込書をメール・FAXで送付してください。

《申込み・問合せ先》

茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 振興担当 齋藤

✉ shogaku1@pref.ibaraki.lg.jp ✉ FAX: 029-301-5339

TEL: 029-301-5318 〒310-8588 水戸市笠原町978番6

《会場》 茨城大学 水戸キャンパス 〒310-8512 水戸市文京2-1-1



JR水戸駅(北口)バスターミナル7番乗り場から茨城交通バス「茨大行き(栄町経由)」に乗車後「茨大前」で下車。(バス乗車時間は約30分)

最新情報はFacebookページをチェック→



- ※ 当日は、できるだけ公共交通機関を御利用ください。
- ※ 茨城大学の学食は御利用いただけませんので御了承ください。
- ※ 日程や会場、発表テーマ、発表者等については、変更になる場合があります。
- ※ 個人情報は、本大会に関すること以外の目的では使用いたしません。
- ※ 当日の様子(写真、動画、アンケート内容等)につきましては、ホームページ(SNSを含む)や報告書等で使用することを御了承ください。
- ※ チラシ等のブース出店を希望する団体については、個別に御連絡ください。
- ※ 宿泊については、個人で御対応ください。

「生涯学習・社会教育」巡り交流会 小・中学生も壁新聞で発表

水戸市

今年で4回目を迎えた関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会が9月22、23の両日、水戸市内で開かれ、教員をはじめ、児童・生徒、社会教育委員、民生・児童委員、民間企業の従業員などさまざまな立場の人たちが自分たちの活動を紹介し合うなどした。今回は小・中学生の発表もあった。

開会に当たって主催者である茨城県教委の柴原宏一教育長は、「以前は、生涯学習、社会教育といえば人生ベテランの人(の関わり)が多かった。ここは高校生が多い。年齢層が変わってうれし

い」などと話し、幅広い世代が交流する場となっていることの意味を語った。

小・中学生による発表は、大規模小売店舗

などを展開するイオングループの豊新聞コンテストに関するもの。同社は社会貢献活動として子どもたちが環境問題を考えるクラブを各地に設けている。コ

ンテストで全国大会に出場した茨城県東海村のクラブに所属する小・中学生が環境問題について調べてまとめた壁新聞について口頭で解説した。

(次号以降で詳報)



教員、教委職員、大学生などを前に、環境問題について学んだ成果を壁新聞で発表する小・中学生

生涯学習・社会教育

この会合は、茨城県教育委員会が主催。今回は関係した茨城県生涯学習推進部、県地方の1都7県と福島県、茨城県教育委員会、茨城県大学名譽の活動が紹介された。茨城県は、「自助、共助、民生・児童委員、小・中・高、公助の積極的なミックス」が必要。自助と共助を



茨城県教育委員会 生涯学習推進部長 岡田 啓一 氏

委員をはじめ、文科省からまかせないといけな職務の姿もあった。自助、共助を豊かに

放課後活動支援など報告

埼玉県富士見市立勝瀬小学校の放課後活動を支援している羽石啓吾さん。放課後の学習を支援し、月1回、校内の遊びの場を設けてきた。

この活動は、茨城県教育委員会が主催。今回は関係した茨城県生涯学習推進部、県地方の1都7県と福島県、茨城県教育委員会、茨城県大学名譽の活動が紹介された。茨城県は、「自助、共助、民生・児童委員、小・中・高、公助の積極的なミックス」が必要。自助と共助を

今年で4回目を迎えた「関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会」が先月末、茨城大学で開かれ、民生・児童委員、自治会役員などさまざまな立場の大人が子どもの育ちを助けたり、地域社会の活性化に取

茨城大で 1都7県の児童委員ら交流

埼玉県富士見市立勝瀬小学校の放課後活動を支援している羽石啓吾さん。放課後の学習を支援し、月1回、校内の遊びの場を設けてきた。

埼玉県富士見市立勝瀬小学校の放課後活動を支援している羽石啓吾さん。放課後の学習を支援し、月1回、校内の遊びの場を設けてきた。

埼玉県富士見市立勝瀬小学校の放課後活動を支援している羽石啓吾さん。放課後の学習を支援し、月1回、校内の遊びの場を設けてきた。

地域を支える

- PTA
- 社会教育
- 民生・児童委員
- 地方議会

小学校区規模で生活支え合い

同県鹿嶋市には、小なごについて説明した。同県鹿嶋市は戦後人口が増え、高齢者の割合が高くなっている。自治会が機能しづらく、市民運動会が開かれなくなっている。市議会が機能しづらく、市民運動会が開かれなくなっている。

民生・児童委員、自治会役員などさまざまな立場の大人が子どもの育ちを助けたり、地域社会の活性化に取

○第4回大会関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会 分科会組織と役割分担

業務内容：実践事例発表会全般に関すること

運営部長：池田 馨 | 全体責任者：栗山 成孝（水戸教育事務所）

A会場：①公民館・施設と地域づくり（203） 会場責任者：木下 健（行方市派遣）

役割	事務所等	氏名	所属	備考
司会 1名	鹿行教育事務所	根本 重巳	神栖市	
タイムキーパー 1名	鹿行教育事務所	根本 聡美	潮来市	
記録者 4名	鹿行教育事務所	太田 雄介	鹿嶋市	
	鹿行教育事務所	石原 国星	鹿嶋市	
	鹿行教育事務所	紫村 拓也	潮来市	
	鹿行教育事務所	近藤 由美	銚田市	

B会場：②市民の手による活動（204） 会場責任者：根本 拓（笠間市派遣）

役割	事務所等	氏名	所属	備考
司会 1名	水戸教育事務所	徳増 香織	常陸大宮市	
タイムキーパー 1名	水戸教育事務所	小林 博	茨城町	
記録者 4名	水戸教育事務所	富山 覚志	那珂市	
	水戸教育事務所	二川 学	大洗町	
	水戸教育事務所	飛田 雅大	東海村	
	生涯学習センター	山田 聡	水戸生涯学習センター	

C会場：③地域活動と学校（205） 会場責任者：小堀 隆弘（水戸生涯学習センター）

役割	事務所等	氏名	所属	備考
司会 1名	県南教育事務所	新木 圭彦	阿見町	
タイムキーパー 1名	県南教育事務所	高森 志保	牛久市	
記録者 4名	県南教育事務所	飯田 英路	土浦市	
	県南教育事務所	木鉛美奈子	龍ヶ崎市	
	県南教育事務所	大久保正美	つくばみらい市	
	レイクエコー	石川夕香里	女性プラザ	

D会場：④環境・国際に関する活動（207） 会場責任者：志摩 邦雄（NPO法人 インパクト）

役割	事務所等	氏名	所属	備考
司会 1名	県北教育事務所	鴨志田 誠	日立市	
タイムキーパー 1名	県南教育事務所	森戸 秀徳	石岡市	
記録者 4名	県西教育事務所	杉本 牧人	古河市	
	県西教育事務所	杉山 康三	筑西市	
	県北教育事務所	佐藤みゆき	高萩市	
	県北教育事務所	吉田 薫	常陸太田市	

E会場：⑤大学・図書館・企業との連携（208） 会場責任者：宮本 昌枝（鹿行生涯学習センター）

役割	事務所等	氏名	所属	備考
司会 1名	県西教育事務所	須藤 勝繁	結城市	
タイムキーパー 1名	県西教育事務所	鈴木 忠雄	坂東市	
記録者 4名	県西教育事務所	海老原 淳	常総市	
	県西教育事務所	高島 誠	桜川市	
	県西教育事務所	高橋 直之	五霞町	
	県西教育事務所	岩見 喜市	境町	

※ 司会者とタイムキーパーは事例毎に分担する。

※ 記録者は報告書の原稿作成を担当する。

分科会機材等の対応 責任者：成田 悦子（鹿行教育事務所）

役割	事務所等	氏名	所属	備考
資料等の掲示・配付と会場備品に関する こと	生涯学習センター	大山 邦治	水戸生涯学習センター	機材調整・連絡担当
	生涯学習センター	佐藤 竜也	水戸生涯学習センター	機材調整・連絡担当
	青少年教育施設	岡田 俊英	白浜少年自然の家	機材調整・連絡担当
	青少年教育施設	生天目 咲弥	白浜少年自然の家	A会場受付・機器セット
	水戸教育事務所	中島 康弘	学校教育課	B会場受付・機器セット
	水戸教育事務所	磯田 洋	学校教育課	C会場受付・機器セット
	鹿行教育事務所	米川 仁	学校教育課	D会場受付・機器セット
	鹿行教育事務所	木滝 道章	学校教育課	E会場受付・機器セット

※ 調整・連絡担当：5会場の連絡調整及び各会場用資料の確認
（各会場の机・椅子等の配置については会場部が担当）

※ 会場受付：各会場での人数確認と資料の配付

※ インカムの準備

※ メッセージカードの回収及び管理（各会場責任者）

○第4回大会関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会 実行委員名簿

No	役職等	氏名	組織・職名	担当部会	備考	
1	委員長	菊池 龍三郎	茨城県生涯学習・社会教育研究会 顧問 (茨城大学名誉教授)	—		
2	副委員長	長谷川 幸介	茨城県生涯学習・社会教育研究会 会長	広報部長		
3		池田 馨	茨城県生涯学習・社会教育研究会 副会長	運営部長		
4		照井 康郎	茨城県教育庁総務企画部 生涯学習課長	会場部長	総務担当	
5		委員	学識経験者	木村 競	茨城大学	運営部
6	坂井 知志			常磐大学	運営部	
7	伊藤 真木子			常磐大学	広報部	
8	中島 美那子			茨城キリスト教大学	広報部	
9	社会教育関係		儘田 茂樹	茨城県社会教育委員連絡協議会 会長	広報部	
10			富山 かなえ	筑波総研株式会社	広報部	
11			横山 典男	茨城県生涯学習・社会教育研究会	運営部	
12			栗田 将夫	NPO法人 ひと・まちなつとわーく	運営部	
13			志摩 邦雄	NPO法人 インパクト	運営部	
14			法堂 泰明	NPO法人 日本スポーツ振興協会	広報部	
15			古田土 伸男	(公財)茨城県教育財団	会場部	
16			県関係	栗山 成孝	水戸教育事務所 主任社会教育主事	運営部
17	阿部 裕美			県北教育事務所 主任社会教育主事	広報部	
18	成田 悦子			鹿行教育事務所 主任社会教育主事	運営部	
19	若山 隆男			県南教育事務所 主任社会教育主事	会場部	
20	古川 宏幸			県西教育事務所 主任社会教育主事	広報部	
21	小堀 隆弘			水戸生涯学習センター	運営部	
22	松本 京子			県北生涯学習センター	広報部	
23	宮本 昌枝			鹿行生涯学習センター	運営部	
24	小沼 光一			県南生涯学習センター	会場部	
25	行本 佳織			県西生涯学習センター	広報部	
26	針谷 武			中央青年の家	会場部	
27	佐藤 孝弘			白浜少年自然の家	運営部	
28	柴原 尚之		さしま少年自然の家	広報部		
29	市町村関係		富永 正弘	派遣社会教育主事会代表(県南)	会場部	
30			根本 拓	派遣社会教育主事会(水戸)	運営部	
31			鬼澤 弘治	派遣社会教育主事会(県北)	広報部	
32			木下 健	派遣社会教育主事会(鹿行)	運営部	
33			鈴木 勝久	派遣社会教育主事会(県西)	広報部	
34	アドバイザー		國府田 大	国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター 専門調査員	—	

監事	飯村 雅明	株式会社茨城新聞社 地域連携室長	—	
監事	宮崎 薫	茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 副参事兼総括課長補佐	—	

<事務局>

事務局長	平山 健治	茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 振興担当課長補佐	—	
事務局次長	前原 仁	茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 学習支援担当課長補佐	—	
事務局	齋藤 幸子	茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 振興担当社会教育主事	—	
事務局	田宮 奈津美	茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 管理担当主事	—	会計担当
事務局	大月 光司	茨城県生涯学習・社会教育研究会	—	

歴代大会テーマ、事例発表カテゴリー一覧

第 1 回 大会	
大会テーマ	県域を越えて「学びによる地域づくり」の輪を広げよう！
事例発表 カテゴリー	(会場A) 学校・家庭・地域の連携 (会場B) 指導者養成・研修 (会場C) 地域課題の解決に向けた取組 (会場D) ボランティア関係 (会場E) 青少年教育

第 2 回 大会	
大会テーマ	今こそ社会教育の底力を！
事例発表 カテゴリー	(会場A) 学校・家庭・地域の連携 (会場B) 家庭教育支援 (会場C) 地域課題の解決に向けた取組① (会場D) 地域課題の解決に向けた取組② (会場E) 青少年教育

第 3 回 大会	
大会テーマ	社会教育の大きな波を起こそう！
事例発表 カテゴリー	(会場A) 学校・家庭・地域の連携① (会場B) 学校・家庭・地域の連携② (会場C) 地域課題の解決に向けた取組① (会場D) 地域課題の解決に向けた取組② (会場E) 青少年教育

第 4 回 大会	
大会テーマ	LINK to Action! ～自分らしい未来のための現場報告～
事例発表 カテゴリー	(会場A) 公民館・施設と地域づくり 「子どもと大人が元気になる協力体制のづくり方」 (会場B) 市民の手による活動 「やりたいことを自分から実現する活動」 (会場C) 地域活動と学校 「学校と子どもたちが主役の地域活動」 (会場D) 環境・国際に関する活動 「環境保護・多文化共生で住民が居心地よくなる活動」 (会場E) 大学・図書館・企業との連携 「大学・図書館・企業が地域と共に成長する活動」

facebook でつながろう！



関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会のページは
QRコードからどうぞ！



関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会
第4回大会 実行委員会

<事務局> 茨城県教育庁総務企画部生涯学習課振興担当
〒310-8588 茨城県水戸市笠原町 978 番6
E-mail shogaku1@pref.ibaraki.lg.jp
TEL 029-301-5318 FAX 029-301-5339